


<p>1. プログラム名称</p>
<p>自治医科大学附属さいたま医療センター総合診療専門研修プログラム</p> 
<p>2. 専攻医定員</p>
<p>原則1学年あたり2名とするが、増員を希望する場合はプログラム申請書Aの別紙5に理由と共に定員希望数を記載すること。</p>
<p>3. プログラムの期間</p>
<p>基本コース（3）年間、地域重点コース（4）年間</p>
<p>4. 概要</p>
<p>A. プログラムを展開する場や医療施設の地域背景や特長</p> <p>さいたま市は人口122万の大都市で、将来の高齢者医療人口増加率は全国1位であるにもかかわらず、人口10万人当たりの医師数（148.2人）と病床数は全国最下位である。このように全国的にも特色ある地域で、有能な総合診療専門医を育成するために、連携医療機関を都市部と医療資源に恵まれた地域でバランス良く配置し、それぞれの医療機関の特色を生かしながら研修できるように工夫した。</p> <p>当センターは、最新の医療設備を備え、優秀なスタッフが診療、教育、医学研究に当たっており、さいたま市のみならず埼玉県中央部の中心的な医療機関のひとつである。私たちは、「患者にとって最善の医療をめざす総合医療」と「高度先進医療をめざす専門医療」の一体化とその実践を目標としている。また、当センターは多くの患者さんに恵まれているため幅広く豊富な臨床経験を積むことができ、総合診療科も活躍しているので総合的な視野に立った医師を養成することが可能である。さらに各診療科間の垣根が低い診療環境であることは、初期臨床研修修了者から高く評価されてきた。総合診療科では、高度に細分化された専門科診療では対処できない患者さんのマネジメントも展開している。また、医学部学生や初期臨床研修医の教育に携わる機会も多く、教育を通じた多くの学びの場も充実している。</p>
<p>B. プログラムの理念、全体的な研修目標</p> <p>このプログラムのゴールは、患者、家族のマネジメントに必要な知識、技能、態度を身につけ、患者中心の医療を実現するために、多職種連携をはかり、地域完結型の医療の統合的実践ができる総合診療専門医になることである。総合診療専門医に求められるのは、医療・福祉・介護の総合的マネジメント能力である。このプログラムの研修によって、地域においては家庭医として、地域中核病院では病院勤務の地域総合医として、総合病院においては病院総合医としての役割を担うことができる足腰の強い総合診療専門医を養成できるものと確信している。</p>
<p>C. 研修期間を通じて行われる勉強会・カンファレンス等の教育機会</p> <p>（例）定期的なTV会議システムによるカンファレンス・経験省察研修録（ポートフォリオ）勉強会や作成指導等 総合回診（毎週水曜日午後）、ACP journal club、総合診療科ミニクルズス、外来振り返りカンファレンス、臨床研究勉強会、米国・英国医師による教育カンファレンス、論文作成指導、TV会議システムによる定期的カンファレンス・経験省察研修録勉強会や作成指導、感染症対策研修会、感染症講演会、医療安全講演会、医療倫理講演会（eラーニングを含む）、保険診療に関する講演会、ハラスメント教育研修、医師会主催研究会・講演会など豊富な教育機会が用意されている。</p>

D. ローテーションのスケジュールと期間

(4年以上のプログラムの場合、枠を増やして4年目以降のローテーションについても記載すること)

基本コース

1年目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
	施設名	自治医科大学附属さいたま医療センター						連携施設(選択)						
	領域	総診Ⅱ			救急			総診Ⅰ						
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
	施設名	自治医科大学附属さいたま医療センター・連携施設(選択)												
	領域	内科			内科			小児科			総合Ⅱ			
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
	施設名	自治医科大学附属さいたま医療センター・連携施設(選択)						連携施設(選択)			自治医科大学附属さいたま医療センター			
	領域	内科			内科			総診Ⅰ			総診Ⅱ			

特記事項(上記のローテーション順は、代表的な例である。専攻医と研修管理委員会との協議によって、ローテーション順と連携施設を決定するものとする。)

※ 代表的な例を書いてください。募集定員全員のローテーション表は不要です。

総合診療 専門研修	総合診療専門研修Ⅰ (9)カ月			総合診療専門研修Ⅱ (9)カ月			
領域別 研修	内科 (12)カ月		小児科 (3)カ月		救急科 (3)カ月		その他 (0)カ月

※ローテーションする施設によって研修期間が異なる場合(例えば、総合診療専門研修ⅠがA診療所なら6ヶ月、B診療所なら9ヶ月など)、これらの表はコピー&ペーストして複数作成してください。

地域重点コース

1年目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	施設名	連携施設(選択)											
	領域	総診Ⅱ											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	施設名	連携施設(選択)											
	領域	総診Ⅰ											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	施設名	自治医科大学附属さいたま医療センター・連携施設(選択)											
	領域	内科			内科			内科			小児科		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	施設名	自治医科大学附属さいたま医療センター・連携施設(選択)											
	領域	救急			内科			総診Ⅱ					

特記事項(上記のローテーション順と研修期間は、代表的な例である。専攻医と研修管理委員会との協議によって、ローテーション順と連携施設を決定するものとする。原則として、自治医科大学卒業医師、埼玉県地域枠医師を対象としている。地域重点コースの総診Ⅰ・総診Ⅱは、僻地である秩父地区の連携施設(秩父市立病院または国民健康保険町立小鹿野中央病院)を想定している。)

総合診療 専門研修	総合診療専門研修Ⅰ (12)カ月			総合診療専門研修Ⅱ (18)カ月			
領域別 研修	内科 (12)カ月		小児科 (3)カ月		救急科 (3)カ月		その他 (0)カ月

※「総診Ⅰ」、「総診Ⅱ」、「内科」、「小児科」、「救急」、「その他」という表記で記入してください。

※整備基準にある「平成30年度からの3年間に専門研修が開始されるプログラムについては、専門研修施設群の構成についての例外を日本専門医機構において諸事情を考慮して認めることがある。」との規定を踏まえ、3年間の研修プログラムにおいても、最大6か月間の選択研修が認められます。ただし、その場合でも、各研修科の研修期間の要件

を満たすことが必要です。

※「総診Ⅰ」と「総診Ⅱ」を同時に研修することはできません。また、原則として異なる医療機関での研修を実施する必要があります。

※原則として、都道府県の定めるへき地に専門研修基幹施設が所在するプログラム、あるいは研修期間中に2年以上のへき地での研修を必須にしているプログラムにおいて、ブロック制で実施できない合理的な理由がある場合限り、小児科・救急科の研修をカリキュラム制で実施することが認められます。該当する場合は、特記事項に詳細を記入してください。

5. 準備が必要な研修項目

地域での健康増進活動

実施予定場所 (自治医科大学附属さいたま医療センターまたは連携施設)

実施予定の活動 (研修施設の糖尿病教室において講師を務める。住民対象の公開講座を開催し、講師を務める)

実施予定時期 ※どのローテーション中に実施するか

(総診Ⅰまたは総診Ⅱローテーション中)

教育 (学生、研修医、専門職に対するもの)

実施予定場所 (自治医科大学附属さいたま医療センターまたは連携施設)

実施予定の活動 (BSL 学生、初期臨床研修医に対する指導と助言、研修医セミナーの開催)

実施予定時期 ※どのローテーション中に実施するか

(総診Ⅰまたは総診Ⅱローテーション中)

研究

実施予定場所 (自治医科大学附属さいたま医療センターまたは連携施設)

実施予定の活動 (症例報告の執筆、Case-control study)

実施予定時期 ※どのローテーション中に実施するか

(総合診療専門研修Ⅱローテーション中)

6. 専攻医の評価方法 (各項目を満たすとき、口を塗りつぶす (■のように))

※形成的評価と総括的評価を研修修了認定の方法も含めて具体的に記入してください。

形成的評価

■研修手帳の記録及び定期的な指導医との振り返りセッションを定期的実施する (頻度: ブロックごと)

■経験省察研修録 (ポートフォリオ) 作成の支援を通じた指導を行う (頻度: 年1回から2回)

■作成した経験省察研修録 (ポートフォリオ) の発表会を行う (頻度: 年1回 参加者の範囲: 専攻医、指導医)

■実際の業務に基づいた評価 (Workplace-based assessment) を定期的実施する (頻度: ブロックごと)

■多職種による360度評価を各ローテーション終了時等、適宜実施する

■年に複数回、他の専攻医との間で相互評価セッションを実施する

■ローテート研修における生活面も含めた各種サポートや学習の一貫性を担保するために専攻医にメンターを配置し定期的に支援するメンタリングシステムを構築する

■メンタリングセッションは数ヶ月に一度程度を保証する

総括的評価

■総合診療専門研修Ⅰ・Ⅱの研修終了時には、研修手帳に専攻医が記載した経験目標に対する自己評価の確認と到達度に対する評価を総合診療専門研修指導医が実施する。

■内科ローテート研修において、症例登録・評価のため、内科領域で運用する専攻医登録評価システム (J-OSLER) による登録と評価を行う。研修終了時には病歴要約評価を含め、技術・技能評価、専攻医の全体評価結果を内科指導医が確認し、総合診療プログラムの統括責任者に報告する。

■3ヶ月の小児科の研修終了時には、小児科の研修内容に関連した評価を小児科の指導医が実施する

■3ヶ月の救急科の研修終了時には、救急科の研修内容に関連した評価を救急科の指導医が実施する

■以下の基準でプログラム統括責任者はプログラム全体の修了評価を実施する

- (1) 研修期間を満了し、かつ認定された研修施設で総合診療専門研修ⅠおよびⅡ各6ヶ月以上・合計18ヶ月以上、内科研修12ヶ月以上、小児科研修3ヶ月以上、救急科研修3ヶ月以上を行っており、それぞれの指導医から修了に
- (2) 専攻医自身による自己評価と省察の記録、作成した経験省察研修録 (ポートフォリオ) を通じて、到達目標がカリキュラムに定められた基準に到達している

- (3) 研修手帳に記録された経験目標が全てカリキュラムに定められた基準に到達している
 なお、研修期間中複数回実施される、医師・看護師・事務員等の多職種による 360 度評価（コミュニケーション、チームワーク、公益に資する職業規範）の結果も重視する

研修修了認定の方法（総括的評価結果の判断の仕方・修了認定に関わるメンバー）

修了判定会議のメンバー

■研修プログラム管理委員会と同一

□その他（

）

修了判定会議の時期（研修プログラム管理委員会終了後 2 週間以内）

7. プログラムの質の向上・維持の方法

研修プログラム管理委員会

委員会の開催場所（自治医科大学附属さいたま医療センター会議室）

委員会の開催時期（毎年 5 月、12 月）

専攻医からの個々の指導医に対する評価

評価の時期（各ブロックローテーション終了時）

評価の頻度（ブロックローテーション終了毎）

評価結果の利用法（指導方法の改善、指導医マニュアル改訂に利用、ファカルティ・ディベロップメント研修に利用）

研修プログラムに対する評価

評価の時期（各ブロックローテーション終了時）

評価の頻度（ブロックローテーション終了毎）

評価結果の利用法（研修プログラムの改善およびファカルティ・ディベロップメントに利用）

8. 専門研修施設群

基幹施設の施設要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））

■総合診療専門研修Ⅰの施設基準を満たしている。

■総合診療専門研修Ⅱの施設基準を満たしている。

■大学病院で研修全体の統括組織としての役割を果たしている、あるいは適切な病院群を形成している施設である。

研修施設群全体の要件。

■総合診療専門研修Ⅰとして、のべ外来患者数 400 名以上／月、のべ訪問診療件数 20 件以上／月である。

■総合診療専門研修Ⅱとして、のべ外来患者数 200 名／月以上、入院患者総数 20 名以上／月である。

■小児科研修として、のべ外来患者数 400 名以上／月である。

■救急科研修として、救急による搬送等の件数が 1000 件以上／年である。

地域医療・地域連携への対応

■へき地・離島、被災地、医療資源の乏しい地域での研修が 1 年以上である。

具体的に記載：地域重点コース

施設名（秩父市立病院） 市町村名（秩父市） 研修科目（総診Ⅱ） 研修期間（12 か月）

施設名（国民健康保険町立小鹿野中央病院） 市町村名（小鹿野町） 研修科目（総診Ⅰまたは総診Ⅱ） 研修期

間（12 か月）

施設名（ ） 市町村名（ ） 研修科目（ ） 研修期間（ ） か月）

□基幹施設がへき地※に所在している。

□へき地※での研修期間が 2 年以上である。

具体的に記載：

施設名（ ） 市町村名（ ） 研修科目（ ） 研修期間（ ） か月）

施設名（ ） 市町村名（ ） 研修科目（ ） 研修期間（ ） か月）

施設名（ ） 市町村名（ ） 研修科目（ ） 研修期間（ ） か月）

※過疎地域自立推進特別措置法に定める過疎地域。詳細は総務省ホームページ参照

http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/c-gyousei/2001/kaso/kasomain0.htm

http://www.soumu.go.jp/main_content/000456268.pdf

9. 基幹施設

研修施設名

自治医科大学附属さいたま医療センター

所在地	住所 〒330-8503 埼玉県さいたま市大宮区天沼町 1 丁目 8 4 7 番地 電話 048-647-2111 FAX 048-648-5188 E-mail chicco@f.email.ne.jp
プログラム統括責任者氏名	福地貴彦
プログラム統括責任者 部署・役職	自治医科大学附属さいたま医療センター総合診療科・講師
事務担当者氏名	稲原 祐輔
連絡担当者連絡先	住所 〒330-8503 埼玉県さいたま市大宮区天沼町 1 丁目 8 4 7 番地 電話 048-647-2111 FAX 48-648-5188 E-mail s-gakumu @jichi.ac.jp
基幹施設のカテゴリー	<input type="checkbox"/> 総合診療専門研修Ⅰの施設 <input type="checkbox"/> 総合診療専門研修Ⅱの施設 <input checked="" type="checkbox"/> 大学病院
基幹施設の所在地	二次医療圏名（さいたま） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
<p>施設要件（各項目を満たすとき、<input type="checkbox"/>を塗りつぶす（<input checked="" type="checkbox"/>のように））</p> <ul style="list-style-type: none"> ■総合診療以外の 18 基本診療領域の基幹施設機能を、本プログラム統括責任者が所属する診療科あるいは部門では担当していない（プログラム基幹施設の役割を診療科・部門が兼任していない） ■本プログラム以外の総合診療専門研修プログラムを本基幹施設は運営していない ■プログラム統括責任者が常勤で勤務し、コーディネーターとしての役目を十分果たせるように時間的・経済的な配慮が十分なされている ■専門研修施設群内での研修情報等の共有が円滑に行われる環境（例えば TV 会議システム等）が整備されている ■プログラム運営を支援する事務の体制が整備されている ■研修に必要な図書や雑誌、インターネット環境が整備されている <ul style="list-style-type: none"> ※研修用の図書冊数（7,399 冊【視聴覚資料を含む】） ※研修用の雑誌冊数（17,998 冊） ※専攻医が利用できる文献検索や二次資料の名称（UpToDate、医中誌、メディカルオンライン、Web of Science 他） ※インターネット環境 <ul style="list-style-type: none"> ■LAN 接続のある端末 ■ワイヤレス ■自施設で臨床研究を実施したり、大学等の研究機関と連携した研究ネットワークに加わったりするなど研究活動が活発に行われている <p>具体例（科研費基盤研究（C）「臨床検査での超極端値と短期的予後との関連性—横断的縦断的解析とその臨床的意義—」、RESPECT 研究、数々の症例対照研究など）</p>	

10. 連携施設（1）	
連携施設名	社会医療法人 さいたま市民医療センター
所在地	住所 〒331-0054 埼玉県さいたま市西区島根 299-1 電話：048-626-0011 FAX：048-799-5146 E-mail ishi-ind@umin.ac.jp
連携施設担当者氏名	石田岳史
連携施設担当者 部署・役職	内科・副院長
事務担当者氏名	安藝幸治
連絡担当者連絡先	住所 〒331-0054 埼玉県さいたま市西区島根 299-1 電話：048-626-0011 FAX：048-799-5146 E-mail k.aki@scmc.or.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（さいたま） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ

10. 連携施設 (2)	
連携施設名	独立行政法人地域医療機能推進機構 (JCHO) さいたま北部医療センター
所在地	住所 〒331-8625 埼玉県さいたま市北区盆栽町 453 番地 電話 : (048) 663-1671 FAX : (048) 663-0058 E-mail ykuroda-jci@umin.ac.jp
連携施設担当者氏名	黒田 豊
連携施設担当者 部署・役職	院長
事務担当者氏名	清水 梨絵
連絡担当者連絡先	住所 〒331-8625 埼玉県さいたま市北区盆栽町 453 番地 電話 : (048) 663-1671 FAX : (048) 663-0058 E-mail shimizu-rie@saitamahokubu.jcho.go.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名 (さいたま) 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である → <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ

10. 連携施設 (3)	
連携施設名	秩父市立病院
所在地	住所 〒368-0025 埼玉県秩父市桜木町 8 番 9 号 電話 0494-23-0611 FAX 0494-23-0650 E-mail a01880@city.chichibu.lg.jp
連携施設担当者氏名	勅使河原正敏
連携施設担当者 部署・役職	院長
事務担当者氏名	岩崎 麻美子
連絡担当者連絡先	住所 〒368-0025 埼玉県秩父市桜木町 8 番 9 号 電話 0494-23-0611 FAX 0494-23-0650 E-mail byoin@city.chichibu.lg.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名 (秩父) 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である → <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

10. 連携施設 (4)	
連携施設名	国民健康保険町立小鹿野中央病院
所在地	住所 〒368-0105 埼玉県秩父郡小鹿野町小鹿野 300 番地 電話 (0494) 75 - 2332 FAX (0494) 75 - 3313 E-mail byoin@town.ogano.lg.jp
連携施設担当者氏名	関口哲夫
連携施設担当者 部署・役職	院長
事務担当者氏名	黒澤 平太郎
連絡担当者連絡先	住所 〒368-0105 埼玉県秩父郡小鹿野町小鹿野 300 番地 電話 (0494) 75 - 2332 FAX (0494) 75 - 3313 E-mail byoin@town.ogano.lg.jp

連携施設の所在地	二次医療圏名（秩父） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
----------	--

10. 連携施設（5）

連携施設名	南魚沼市立ゆきぐに大和病院
所在地	住所 〒949-7302 新潟県南魚沼市浦佐 4115 番地 電話（025）777-2111 FAX（025）777-3853 E-mail matsushima@yukigunihp.jp
連携施設担当者氏名	松島 一雄
連携施設担当者 部署・役職	院長
事務担当者氏名	清塚 隆司
連絡担当者連絡先	住所 〒949-7302 新潟県南魚沼市浦佐 4115 番地 電話（025）777-2111 FAX（025）777-3853 E-mail niigata@yukigunihp.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（魚沼） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ

10. 連携施設（6）

連携施設名	南魚沼市民病院
所在地	住所 〒949-6680 新潟県南魚沼市六日町 2 6 4 3 番地 1 電話 025-788-1222 FAX 025-788-1231 E-mail yasusi.ohnishi024@gmail.com
連携施設担当者氏名	大西康史
連携施設担当者 部署・役職	副院長
事務担当者氏名	同上
連絡担当者連絡先	住所、電話、FAX、E-mail 同上
連携施設の所在地	二次医療圏名（魚沼） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ

10. 連携施設（7）

連携施設名	医療法人博仁会共済病院
所在地	住所 〒336-0931 埼玉県さいたま市緑区原山 3-15-31 電話 048-882-2867 FAX 048-882-2887 E-mail soumukt@kyosai-hosp.or.jp
連携施設担当者氏名	本松 茂
連携施設担当者 部署・役職	医師・院長
事務担当者氏名	佐藤昌宏
連絡担当者連絡先	住所 〒336-0931 埼玉県さいたま市緑区原山 3-15-31 電話 048-882-2867 FAX 048-882-2887 E-mail soumukt@kyosai-hosp.or.jp

連携施設の所在地	二次医療圏名（さいたま） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
----------	--

10. 連携施設（8）	
連携施設名	深谷赤十字病院
所在地	住所 〒366-0052 埼玉県深谷市上柴町西 5-8-1 電話 048-571-1511 FAX 048-573-5351 E-mail jinji@fukaya.jrc.or.jp
連携施設担当者氏名	中橋 寛隆
連携施設担当者 部署・役職	内科（医員）
事務担当者氏名	田口 宏幸
連絡担当者連絡先	住所 〒366-0052 埼玉県深谷市上柴町西 5-8-1 電話 048-571-1511 FAX 048-573-5351 E-mail jinji@fukaya.jrc.or.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（北部） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ

10. 連携施設（9）	
連携施設名	社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部 埼玉県済生会川口総合病院
所在地	住所 〒332-8558 埼玉県川口市西川口 5-11-5 電話 048-253-1551 FAX 048-256-5703 E-mail ikyoku-tosho@saiseikai.gr.jp
連携施設担当者氏名	笠井 英裕
連携施設担当者 部署・役職	救急・総合内科 主任部長
事務担当者氏名	宮澤 恭子
連絡担当者連絡先	住所 〒332-8558 埼玉県川口市西川口 5-11-5 電話 048-253-8703 FAX 048-253-8724 E-mail ikyoku-tosho@saiseikai.gr.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（南部） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ

10. 連携施設（10）	
連携施設名	医療法人明医研ハーモニークリニック
所在地	住所 〒336-0918 埼玉県さいたま市緑区松木 3-16-6 電話 (048) 875-7888 FAX (048) 875-7885 E-mail funwave.nakai@gmail.com
連携施設担当者氏名	中井秀一
連携施設担当者 部署・役職	医局長
事務担当者氏名	吉房かおる
連絡担当者連絡先	住所 〒336-0918 埼玉県さいたま市緑区松木 3-16-6

	電話 (048) 875-7888 FAX (048) 875-7885 E-mail mayken@nifty.com
連携施設の所在地	二次医療圏名(さいたま) 都道府県の定めるへき地(8. 研修施設群参照)の指定地域である → <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ

10. 連携施設(11)	
連携施設名	彩の国東大宮メディカルセンター
所在地	住所 〒331-8577 さいたま市北区土呂町 1522 電話 048-665-6111 FAX 048-665-6112 E-mail kenshui@shmc.jp
連携施設担当者氏名	神田大輔
連携施設担当者 部署・役職	内科、副院長兼診療部長
事務担当者氏名	立川 敏章
連絡担当者連絡先	住所 〒331-8577 さいたま市北区土呂町 1522 電話 048-665-6111 FAX 048-665-6112 E-mail toshiaki.tachikawa@achs.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名(さいたま) 都道府県の定めるへき地(8. 研修施設群参照)の指定地域である → <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ

総合診療専門研修 I

総合診療専門研修 I の施設一覧

都道府県 コード	医療機関 コード	へき地・離島、被災地 (該当する場合はチェック)	施設名	基幹施設・ 連携施設の別
11	0301102	<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地	独立行政法人地域医療機能推進機構さいたま 北部医療センター	<input type="checkbox"/> 基幹 <input checked="" type="checkbox"/> 連携
15	2410208	<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地	南魚沼市立ゆきぐに大和病院	<input type="checkbox"/> 基幹 <input checked="" type="checkbox"/> 連携
15	2410497	<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地	南魚沼市民病院	<input type="checkbox"/> 基幹 <input checked="" type="checkbox"/> 連携
11	0101675	<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地	医療法人博仁会共済病院	<input type="checkbox"/> 基幹 <input checked="" type="checkbox"/> 連携
11	0105874	<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地	医療法人明医研ハーモニークリニック	<input type="checkbox"/> 基幹 <input checked="" type="checkbox"/> 連携
11	4800926	<input checked="" type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地	国民健康保険町立小鹿野中央病院	<input type="checkbox"/> 基幹 <input checked="" type="checkbox"/> 連携

総合診療専門研修 I を行う施設ごとの詳細

研修施設名	独立行政法人地域医療機能推進機構 さいたま北部医療センター
診療科名	(内科) ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。
施設情報	<input type="checkbox"/> 診療所 <input checked="" type="checkbox"/> 病院 施設が病院のとき → 病院病床数 (163) 床 診療科病床数 (58) 床
総合診療専門研修 I における研修期間	(6 ~ 12) カ月
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし 常勤指導医なしの場合

	<input type="checkbox"/> へき地・離島であると都道府県により法的に指定されている地区の施設である その場合のサポート体制（ ）		
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい （ ）		
常勤指導医氏名 1	黒田 豊	指導医登録番号	（ ）
常勤指導医氏名 2	松本 都	指導医登録番号	（ ）
常勤指導医氏名 3	高原 映崇	指導医登録番号	（ ）
要件（各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす（ <input checked="" type="checkbox"/> のように））			
研修の内容			
■外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど ■訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 ■地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加			
施設要件			
後期高齢者診療 ■研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている 学童期以下の診療（以下のうち一つを選ぶ） <input type="checkbox"/> 研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている ■学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する <input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか （ ） <input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない 経験を補完できない理由 （ ） 学童期以下の患者の診療を経験するための工夫 （ ）			
■アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている 具体的な体制と方略（当直体制で 24 時間対応し必要に応じてオンコールをもうけている）			
■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略（外来診療から入院、在宅医療に至る患者を継続的に診療することにより継続性の研修が出来る）			
■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当 具体的な体制と方略（救急外来、継続再診外来、在宅における緩和ケア、地域における健康講話を担当）			
■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略（退院前の連携カンファランスに参加し地域医療連携を研修する）			
■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況（親子で定期的に受診している家族を診察、あるいは在宅訪問診療にて家族ぐるみでの診療を経験）			
■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容と方法（定期的に開催している地域住民への健康公開講座を担当する）			
■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している それぞれの概ねの頻度（附属訪問看護ステーションと協力して患者の急変に対応し年 4～5 例の在宅看取りがある）			
診療実績（各項目を満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす（ <input checked="" type="checkbox"/> のように））			
■のべ外来患者数 400 名以上／月 <input type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略 （ ）			
■のべ訪問診療数 20 件以上／月 <input type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している			

具体的な体制と方略（

研修中に定期的に行う教育

当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会
 （毎週火曜日のランチョンセミナー、毎週木曜日の17時から内科カンファレンス、毎週月曜日の17時から訪問診療カンファレンス）
 他の施設で行う教育・研修機会
 （基幹病院にて行われるCPC等の教育・研修機会に積極的に参加）

他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること

本プログラム以外の参加プログラム数（2）
 プログラム名（AMG上尾中央総合病院総合診療専門研修プログラム）
 プログラム名（JCHO 東京城東病院総合診療専門研修プログラム）
 プログラム名（）

研修施設名	南魚沼市立ゆきぐに大和病院		
診療科名	（ 内科 ） ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	<input type="checkbox"/> 診療所 <input checked="" type="checkbox"/> 病院 施設が病院のとき → 病院病床数（40）床 診療科病床数（40）床		
総合診療専門研修Ⅰにおける研修期間	（ 6～12 ）カ月		
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし 常勤指導医なしの場合 <input type="checkbox"/> へき地・離島であると都道府県により法的に指定されている地区の施設である その場合のサポート体制（ ）		
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい （ ）		
常勤指導医氏名1	松島 一雄	指導医登録番号	（ ）
常勤指導医氏名2		指導医登録番号	（ ）
常勤指導医氏名3		指導医登録番号	（ ）
要件（各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
<input checked="" type="checkbox"/> 外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど <input checked="" type="checkbox"/> 訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加			
施設要件			
後期高齢者診療			
<input checked="" type="checkbox"/> 研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている 学童期以下の診療（以下のうち一つを選ぶ） <input type="checkbox"/> 研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている <input checked="" type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する <input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか （ ） <input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない 経験を補完できない理由 （ ） 学童期以下の患者の診療を経験するための工夫 （ ）			

<p>■アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている 具体的な体制と方略（在宅療養している患者のかかりつけ医として、当直体制で 24 時間対応している）</p>
<p>■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略（外来診療から入院、在宅医療に至る患者を継続的に診療している）</p>
<p>■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当 具体的な体制と方略（救急外来、継続再診外来、在宅診療、人間ドックなど健診を行っている）</p>
<p>■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略（隣接する三次救急病院と渡り廊下を通じて連携している。特養協力医療機関として連携している）</p>
<p>■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況（親子で定期的を受診している患者を診療している）</p>
<p>■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容と方法（病院だより（毎月：全戸配布）を通じて市民への受診指導を行っている）</p>
<p>■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している それぞれの概ねの頻度（週 1 回在宅患者の訪問診療を行っており、在宅患者の看取りにも対応している。）</p>
<p>診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））</p>
<p>■のべ外来患者数 400 名以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）</p>
<p>■のべ訪問診療数 20 件以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）</p>
<p>研修中に定期的に行う教育</p>
<p>当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （新患カンファレンス、多職種病棟カンファレンス、カルテチェック） 他の施設で行う教育・研修機会 （医療安全研修会、倫理研修会）</p>
<p>他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること</p>
<p>本プログラム以外の参加プログラム数（1） プログラム名（自治医科大学地域医療後期研修プログラム） プログラム名（ ） プログラム名（ ）</p>

研修施設名	南魚沼市民病院		
診療科名	（ 内科 ） ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	□診療所 ■病院 施設が病院のとき → 病院病床数（140）床 診療科病床数（46）床		
総合診療専門研修 I における研修期間	（ 6 - 1 2 ）カ月		
常勤の認定指導医の配置の有無	■配置あり □配置なし 常勤指導医なしの場合 □へき地・離島であると都道府県により法的に指定されている地区の施設である その場合のサポート体制（ ）		
研修期間の分割	■なし □あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい （ ）		
常勤指導医氏名 1	大西 康史	指導医登録番号	（ ）
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	（ ）
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	（ ）

要件（各項目の全てを満たすとき、口を塗りつぶす（■のように））
<p>研修の内容</p> <p>■外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど</p> <p>■訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事</p> <p>■地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加</p>
<p>施設要件</p> <p>後期高齢者診療</p> <p>■研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている</p> <p>学童期以下の診療（以下のうち一つを選ぶ）</p> <p>口研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている</p> <p>■学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する</p> <p>口学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する</p> <p>具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか （ ）</p> <p>口学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない</p> <p>経験を補完できない理由 （ ）</p> <p>学童期以下の患者の診療を経験するための工夫 （ ）</p>
<p>■アクセスの担保：24時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている</p> <p>具体的な体制と方略（日勤帯では外来看護師が窓口となり、また夜勤帯では当直看護師が窓口となり、24時間体制での相談、必要時には受診にての対応が保障されている。）</p>
<p>■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する</p> <p>具体的な体制と方略（外来は予約制をとっており、研修期間は主治医として継続的な診療を行うことになる。また外来から訪問診療に移行する際も主治医の継続は可能である。）</p>
<p>■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当</p> <p>具体的な体制と方略（外来診療で一次救急、慢性期医療、予防・健康増進活動に従事し、在宅医療および病棟医療で緩和ケアに従事する。）</p>
<p>■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する</p> <p>具体的な体制と方略（当院は訪問看護ステーションが併設されており、日常的に主治医との密な連携が行われている。また他の事業者とも当院の地域医療連携室を介して、必要な情報交換が行われている。）</p>
<p>■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する</p> <p>具体的な状況（当院は訪問看護ステーションが併設されており、日常的に主治医との密な連携が行われている。また他の事業者とも当院の地域医療連携室を介して、必要な情報交換が行われている。）</p>
<p>■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する</p> <p>具体的な内容与方法（住民健診や地域の方の人間ドックにての内科診察や結果説明を行い、必要とされる受診者には医療機関受診を指示する。また学校検診などにも参加する。）</p>
<p>■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している</p> <p>それぞれの概ねの頻度（当院では受診が困難な患者に対しては訪問診療を実施し、がんの終末期など、緩和ケアを必要とする患者を、場合によってはみとりまで担当医として経験する。また、急変など容態の変化の際には、夜間帯であっても入院可能な体制をとっている。）</p>
診療実績（各項目を満たすとき、口を塗りつぶす（■のように））
<p>■のべ外来患者数 400名以上／月</p> <p>口上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している</p> <p>具体的な体制と方略 （ ）</p>
<p>■のべ訪問診療数 20件以上／月</p> <p>口上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している</p> <p>具体的な体制と方略（</p>
<p>研修中に定期的に行う教育</p> <p>当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （週に1回ケースカンファレンス、内科回診（院長）、全入院患者チャートラウンドを行っている。）</p> <p>他の施設で行う教育・研修機会 （地域で行われる多職種研修会等への参加を予定）</p>

他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること
本プログラム以外の参加プログラム数 (4) プログラム名 (自治医科大学地域医療後期研修プログラム) プログラム名 (さいたま市民医療センター総合診療後期研修プログラム) プログラム名 (地域医療研究会後期研修プログラム) プログラム名 (新潟大学病院総合診療専門研修プログラム)

研修施設名	医療法人博仁会共済病院		
診療科名	(内科) ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	<input type="checkbox"/> 診療所 <input checked="" type="checkbox"/> 病院 施設が病院のとき → 病院病床数 (163) 床 診療科病床数 (58) 床		
総合診療専門研修 I における研修期間	(3 ~ 12) カ月		
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし 常勤指導医なしの場合 <input type="checkbox"/> へき地・離島であると都道府県により法的に指定されている地区の施設である その場合のサポート体制 ()		
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい ()		
常勤指導医氏名 1	本松 茂	指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 2	田代友之	指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 3	仲 公正	指導医登録番号	()
要件 (各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
研修の内容			
■外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど			
■訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事			
■地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加			
施設要件			
後期高齢者診療			
■研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている			
学童期以下の診療 (以下のうち一つを選ぶ)			
<input type="checkbox"/> 研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている			
<input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する			
■学童期以下の患者は5%未満だが、近隣の施設において経験を補完する			
具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか (公的病院および開業小児科診療所において小児科研修を行う)			
<input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない			
経験を補完できない理由			
()			
学童期以下の患者の診療を経験するための工夫			
()			
■アクセスの担保：24時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている			
具体的な体制と方略 (在宅医療を行っている患者および外来通院中の患者に対し、24時間、365日、電話対応および救急対応を行っている。また救急告示病院として救急搬送も受けている。)			

<p>■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略（外来診療・入院診療・在宅診療の一定数を受け持つ。また、治療・ケアに関する多職種間の中 心的役割を担い、多職種間の調整を行うことで、診療方針やケア方針を立案することができる。）</p>
<p>■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当 具体的な体制と方略（一般外来では生活習慣病などの慢性疾患患者および急性期患者の診療を行い、また救急外来 で急性期患者を診療する。入院となった場合は担当医となり、当該患者の退院後は外来・在宅での継続治療を担当 する。当院の健診センターでの個別健康診断・指導を担当し、かつ集団に対する健康啓蒙活動の講師として保健予 防指導を担当する。また、入院・外来・在宅でのがん緩和ケア患者の受け持ち医となる。）</p>
<p>■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略（基幹病院や近隣開業医、介護施設からの紹介患者の治療を行いながら、ケア・マネージャ ー・訪問看護師・リハビリスタッフ・居宅サービススタッフ・訪問診療医などと定期的にカンファランスを行うこ とで、治療後の生活を想定し、治療のゴールを考える。また、医師中心の画一的な治療に陥ることなく、適切なサ ポートを提供する。）</p>
<p>■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況（地域に根ざした病院であり、家族ぐるみでかかりつけになっている患者が多く、また当院医療相談 室のサポートもあり、具体的な患者の家族構成および役割を把握しながら、家族的アプローチを行う。）</p>
<p>■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容と方法（小児を含めた予防接種、住民健診・企業検診に携わる。また、病院フロアで定期的に地域住 民に健康学習を行っているが、その講師となり集団的アプローチの具体的技法を習得する。）</p>
<p>■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している それぞれの概ねの頻度（強化型在宅療養支援診療所になっており、3名の指導医および非常勤医師1名が訪問診療 を担当している。在宅看取りにも対応しており、24時間、365日、急変・緩和ケアに対応しているため、充実した 研修が受けられる。）</p>
<p>診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））</p>
<p>■のべ外来患者数 400名以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略 （ ）</p>
<p>□のべ訪問診療数 20件以上／月 ■上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（強化型在宅療養支援診療所として、近隣の3施設と定期的にカンファランスを開き、互いの 患者を診療する体制を取っている。また、3施設の訪問診療患者が入院治療が必要な場合は当院に入院させ、共同指導 を行っている。）</p>
<p>研修中に定期的に行う教育</p>
<p>当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （症例検討会：週3回行っている。個々の症例に関しては、3名の指導医がその都度対応する。） 他の施設で行う教育・研修機会 （週1日の研修日、浦和医師会主催の研修会、感染対策研修会）</p>
<p>他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること</p>
<p>本プログラム以外の参加プログラム数 （ なし ） プログラム名 （ ） プログラム名 （ ） プログラム名 （ ）</p>

研修施設名	医療法人明医研ハーモニークリニック
診療科名	（ ） ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。
施設情報	<p>■診療所 □病院</p> <p>施設が病院のとき → 病院病床数（ ）床 診療科病床数（ ）床</p>
総合診療専門研修Ⅰにおける研修期間	（ 3-12 ）カ月
常勤の認定指導医の配置の有無	■配置あり □配置なし

	常勤指導医なしの場合 <input type="checkbox"/> へき地・離島であると都道府県により法的に指定されている地区の施設である その場合のサポート体制 ()		
研修期間の分割	■なし <input type="checkbox"/> あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい ()		
常勤指導医氏名 1	中井 秀一	指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 2	市川 聡子	指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 3	大和 康彦	指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 4	松林 洋志	指導医登録番号	()
要件（各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容 ■外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど ■訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 ■地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加			
施設要件 後期高齢者診療 ■研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている 学童期以下の診療（以下のうち一つを選ぶ） <input type="checkbox"/> 研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている <input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する ■学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか () <input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない 経験を補完できない理由 () 学童期以下の患者の診療を経験するための工夫 ()			
■アクセスの担保：24時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている 具体的な体制と方略 ()			
■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略 ()			
■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当 具体的な体制と方略 ()			
■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略 ()			
■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況 ()			
■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容と方法 ()			
■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している それぞれの概ねの頻度 ()			

診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
■のべ外来患者数 400名以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略 （ ）			
■のべ訪問診療数 20件以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（			
研修中に定期的に行う教育			
当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （毎日夕方に同医療法人内をスカイプでつなぎ訪問診療カンファレンス、金曜日に重症カンファレンス、 適時各専門医による勉強会、月曜朝に施設内に併設する訪問看護ステーションで症例検討カンファレンスなど多数） 他の施設で行う教育・研修機会 （地域基幹病院開放型病棟へ赴いて地域連携教育、後方支援病院へ赴いて症例検討、年1-2回地域包括ケア勉強会開催）			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数 （ 2 ）			
プログラム名（さいたま市民医療センター総合診療後期研修プログラム ）			
プログラム名（彩の国東大宮メディカルセンター総合診療科専門医プログラム ）			

研修施設名	国民健康保険町立小鹿野中央病院		
診療科名	（ 総合診療科 ） ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	□診療所 ■病院 施設が病院のとき → 病院病床数（95）床 診療科病床数（ ）床		
総合診療専門研修Ⅰにおける研修期間	（ 6－12 ）カ月		
常勤の認定指導医の配置の有無	■配置あり □配置なし 常勤指導医なしの場合 □へき地・離島であると都道府県により法的に指定されている地区の施設である その場合のサポート体制 （ ）		
研修期間の分割	■なし □あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい （ ）		
常勤指導医氏名1	内田 望	指導医登録番号	（ ）
常勤指導医氏名2	黒沢正喜	指導医登録番号	（ ）
常勤指導医氏名3		指導医登録番号	（ ）
要件（各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
■外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど			
■訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事			
■地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加			
施設要件			
後期高齢者診療			

<p>■研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている</p> <p>学童期以下の診療（以下のうち一つを選ぶ）</p> <p><input type="checkbox"/> 研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている</p> <p><input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する</p> <p>■学童期以下の患者は5%未満だが、近隣の施設において経験を補完する</p> <p>具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか（秩父市立病院で1回/週、小児科外来研修）</p> <p><input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない</p> <p>経験を補完できない理由 （ ）</p> <p>学童期以下の患者の診療を経験するための工夫 （ ）</p>
<p>■アクセスの担保：24時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている</p> <p>具体的な体制と方略（在宅医療を提供している患者に、在宅支援病院として対応できる体制を誣いている。24時間電話相談、臨時往診などを行う。一般外来患者においても24時間電話で相談ができるようになっている。）</p>
<p>■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する</p> <p>具体的な体制と方略（研修医は在宅および通院患者の一定数を主治医として受け持ち、継続的に診療する。）</p>
<p>■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当</p> <p>具体的な体制と方略（救急告示病院としてプライマリ・ケア対応、リハビリ、在宅支援、終末期の特別入院、行政と連携した保健予防活動など包括ケアシステムに積極的に関わっている。）</p>
<p>■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する</p> <p>具体的な体制と方略（病院からの紹介患者、在宅医療を要する患者などに対して、訪問看護ステーションやケア・マネージャーなど多職種連携を行い、適切な医療や介護を提供する。当方から紹介が必要な場合は、近隣の高次機能病院に紹介し又逆紹介を受け入れ、連携している。）</p>
<p>■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する</p> <p>具体的な状況（地域に根ざした小病院であり、家族の形態や状況に応じた対応に、行政関連施設との連携を含め対応している。）</p>
<p>■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する</p> <p>具体的な内容と方法（院内広報誌で健康講座の紹介を行い、未受診の地域住民にアプローチできる。住民むけに健康教室を開催し、住民との交流が行われる。）</p>
<p>■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している</p> <p>それぞれの概ねの頻度（訪問診療を行っており、入院が予想される患者に特別入院できる体制をとり、在宅療養、緩和ケア、在宅看取りへも対応している。）</p>
<p>診療実績（各項目を満たすとき、<input type="checkbox"/>を塗りつぶす（■のように））</p>
<p>■のべ外来患者数 400名以上/月</p> <p><input type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している</p> <p>具体的な体制と方略 （ ）</p>
<p>■のべ訪問診療数 20件以上/月</p> <p><input type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している</p> <p>具体的な体制と方略（ ）</p>
<p>研修中に定期的に行う教育</p>
<p>当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （週2回ブリーフィング、週1回カンファレンス、月1回の緩和振り返りカンファレンス、月2回の多職種連携のケア会議・包括ケア会議、院外医師との月2回の症例検討会）</p> <p>他の施設で行う教育・研修機会 （地域医療セミナーを合同で行う ）</p>
<p>他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること</p>

本プログラム以外の参加プログラム数 (2)
プログラム名 (総合診療専門医養成プログラム「ちちぶ」)
プログラム名 (埼玉医科大学病院総合診療専門医研修プログラム)

総合診療専門研修Ⅱ

総合診療専門研修Ⅱの施設一覧

都道府県コード	医療機関コード	へき地・離島、被災地 (該当する場合はチェック)	施設名	基幹施設・ 連携施設の別
11	0304048	<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地	自治医科大学附属さいたま医療センター	<input checked="" type="checkbox"/> 基幹 <input type="checkbox"/> 連携
11	6504344	<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地	社会医療法人さいたま市民医療センター	<input type="checkbox"/> 基幹 <input checked="" type="checkbox"/> 連携
11	4901732	<input checked="" type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地	秩父市立病院	<input type="checkbox"/> 基幹 <input checked="" type="checkbox"/> 連携
11	4800926	<input checked="" type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地	国民健康保険町立小鹿野中央病院	<input type="checkbox"/> 基幹 <input checked="" type="checkbox"/> 連携
15	2410497	<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地	南魚沼市民病院	<input type="checkbox"/> 基幹 <input checked="" type="checkbox"/> 連携
11	4600656	<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地	深谷赤十字病院	<input type="checkbox"/> 基幹 <input checked="" type="checkbox"/> 連携
11	0201350	<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地	社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部 埼玉県済生会川口総合病院	<input type="checkbox"/> 基幹 <input checked="" type="checkbox"/> 連携
11	6507248	<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地	彩の国東大宮メディカルセンター	<input type="checkbox"/> 基幹 <input checked="" type="checkbox"/> 連携

総合診療専門研修Ⅱを行う施設ごとの詳細

研修施設名	自治医科大学附属さいたま医療センター		
診療科名	(総合診療科) ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	病院病床数 (628) 床 診療科病床数 (17) 床		
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間	(6) カ月		
常勤指導医の有無	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり 常勤指導医なしの場合 <input type="checkbox"/> へき地・離島であると都道府県により法的に指定されている地区の施設である その場合のサポート体制 ()		
研修期間の分割	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい (ローテーション開始直後3カ月とローテーション終了直前3カ月)		
常勤指導医氏名 1	尾本 きよか	指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 2	菅原 斉	指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 3	福地 貴彦	指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 4	石井 彰	指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 5	渡辺 珠美	指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 6	松本 葉子	指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 6	安達 迪子	指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 6	山下 武志	指導医登録番号	()
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (<input checked="" type="checkbox"/> のように))			
研修の内容			
<input checked="" type="checkbox"/> 病棟診療：病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題(心理・社会・倫理的問題を含			

<p>む)を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。</p> <p>■外来診療：臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する</p>
<p>施設要件</p> <p>■一般病床ないしは地域包括ケア病床を有する</p> <p>■救急医療を提供している</p>
<p>病棟診療：以下の全てを行っていること</p> <p>■高齢者（特に虚弱）ケア</p> <p>具体的な体制と方略（総合診療科病床は臓器別ではない。入院患者の約5割、外来患者の約3割が高齢者である。要介護者、虚弱高齢者、複合的な疾患を抱えた高齢者の入院が多い。入院後には可及的早期にリハビリテーションを開始し、多職種カンファレンスで様々な情報を共有し、よりよいケアを追及・実践する取り組みを行っている。）</p>
<p>■複数の健康問題を抱える患者への対応</p> <p>具体的な体制と方略（複数の問題を抱える患者に対しては、当科が主治医機能を発揮しながら、他科や他院、また、退院後を見据えた場合には介護担当者と連携して、症候の克服やよりよい療養環境になるようなマネジメントを行なっている。）</p>
<p>■必要に応じた専門医との連携</p> <p>具体的な体制と方略（救急部からの入院患者が約6割を占めている。専門診療科のコンサルテーションは、カンファレンスだけでなく、適時当番医への相談を行なっている。大講座性のため診療科間の垣根は低い。標榜科にはない精神科へも週1回のコンサルテーションが可能である。また、NST、感染対策チーム、緩和ケアチーム、ラピッドレスポンスチームなどへの相談も可能である。このように、院内の各専門医・専門科に随時相談をして、より良いマネジメントを選択している。）</p>
<p>■心理・社会・倫理的複雑事例への対応</p> <p>具体的な体制と方略（総合相談室や診療倫理委員会が整備されている。毎週金曜日に多職種（医師・病棟看護師・退院支援看護師・PT・OT・ST・MSW・薬剤師・臨床心理士）カンファレンスを行っている。またご本人やご家族とインフォームド・コンセントを実施するように、随時対応している。）</p>
<p>■癌・非癌患者の緩和ケア</p> <p>具体的な体制と方略（必要に応じて多職種による緩和ケアチームや臨床心理士に相談しながら、疼痛緩和やご本人のQOLの向上を目指して取り組んでいる。自宅近くの医療機関へ転院し、住み慣れた環境の近くでの療養を勧めることも多い。）</p>
<p>■退院支援と地域連携機能の提供</p> <p>具体的な体制と方略（院内の総合相談室による退院調整や近隣の医療機関、訪問看護ステーションや在宅支援センターとの連携を行っている。またご本人・ご家族、ケア・マネージャーとの退院支援カンファレンスを随時行っている。）</p>
<p>■在宅患者の入院時対応</p> <p>具体的な体制（救急部とも連携し、状況に応じて在宅療養者の入院を受け入れ、在宅主治医、ケア・マネージャーとの連絡を調整している。）</p>
<p>外来診療：以下の診療全てを行っていること</p> <p>■救急外来及び初診外来</p> <p>具体的な体制と方略（救急外来は一般外来の診療時間を含めて、必要があれば当科で対応している。担当した患者の振り返りを指導医と共に夕方に実施する。救急部の年間搬送件数は約6000件である。総合診療科入院患者の6割を救急部から受け入れている。総合診療科の初診外来は、基本的に平日に受け付けている。また、各曜日に外部医療機関からの緊急入院の相談を受ける緊急当番医を配している。）</p>
<p>■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者</p> <p>具体的な体制と方略（総合診療科外来では臓器を特定できない症候や複合的な疾患のある有訴者に対し、随時対応している。特に、複数の健康問題を抱える患者、不明熱、他の医療機関で診断がつかない患者、原発不明癌の患者などを診療している。）</p>
<p>■よくある症候と疾患</p> <p>具体的な体制と方略（発熱、疼痛、めまい、食欲不振、浮腫、リンパ節腫脹、動機、倦怠感など総合診療科外来のほとんどの患者が頻度の高い症候を訴え来院し、その診察・精査を行っている。疾患は多岐にわたっているが、ほとんどの症例で何らかの診断がついている。また、老化に伴う複数の健康問題を抱える高齢者を診療する機会も多い。必要に応じて、専門診療科にコンサルテーションを実施している。）</p>
<p>■臨床推論・EBM</p> <p>具体的な体制と方略（外来患者についての症例検討会を週2回昼休みの時間を利用して行っている。ACP Journal Clubの抄読会を週1回実施している。また、UpToDateなどの教育ツールをオンラインで使用できる環境を整えている。夕方のチャートラウンドでは、日常的に臨床推論やEBMの観点について議論している。）</p>
<p>■複数の健康問題への包括的なケア</p> <p>具体的な体制と方略（複数の健康問題のある患者に対して、院内の専門診療科にコンサルテーションするだけでなく、総合相談室を介して近隣の医療機関、福祉・介護施設と連携して包括的なケアを提供する体制である。）</p>
<p>■診断困難患者への対応</p> <p>具体的な体制と方略（不明熱や原発不明癌は、総合診療科で担当している。診断困難症例は、外来や病棟で月平均5、6例診療している。外来での診断が困難な症例については、必要に応じて入院での精査を行う。基本的には外来で担当した医師が入院の担当医となる。専門診療科へのコンサルテーション、総合診療科内でのカンファレンス、合同診察、文献検索などで、ほぼ100%の確定診断が可能であるが、対症的対応を迫られることもある。最終的には剖検を行うこともある。）</p>

診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））
<p>■当該診療科におけるのべ外来患者数 200名以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）</p>
<p>■当該診療科における入院患者総数 20件以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）</p>
<p>研修中に定期的に行う教育</p> <p>当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （総合回診、内科系同カンファレンス、チームカンファレンス、外来振り返りカンファレンス、ACP journal club、総合診療科ミニクルズ、Fujimoto教授による教育カンファレンス（年4回2週間）、診療録相互評価など） 他の施設で行う教育・研修機会 （ポートフォリオ研究会、地域医師会主催講演会など）</p>
<p>他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること</p>
<p>本プログラム以外の参加プログラム数（ 3 ） プログラム名（さいたま市民医療センター総合診療研修プログラム） プログラム名（JCHOさいたま北部総合診療専門研修プログラム） プログラム名（彩の国東埼玉メディカルセンター総合診療専門研修プログラム）</p>

研修施設名	社会医療法人 さいたま市民医療センター		
診療科名	（ 内科 ） ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	病院病床数（ 340 ）床 診療科病床数（ 125 ）床		
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間	（ 3－12 ）カ月		
常勤指導医の有無	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり 常勤指導医なしの場合 <input type="checkbox"/> へき地・離島であると都道府県により法的に指定されている地区の施設である その場合のサポート体制（ ）		
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい （ ）		
常勤指導医氏名1	石田岳史	指導医登録番号	（ ）
常勤指導医氏名2	中島嘉之	指導医登録番号	（ ）
常勤指導医氏名3	浅見育弘	指導医登録番号	（ ）
要件（各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
<p>■病棟診療：病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題（心理・社会・倫理的問題を含む）を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。</p> <p>■外来診療：臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する</p>			
施設要件			
<p>■一般病床ないしは地域包括ケア病床を有する</p> <p>■救急医療を提供している</p>			
病棟診療 ：以下の全てを行っていること			
<p>■高齢者（特に虚弱）ケア 具体的な体制と方略（内科と一体的に運営されている。入院患者の6割以上、外来も4割が高齢者である。虚弱高齢者、複合疾患が多い。入院後には早期にリハビリテーションを導入し、多職種カンファレンスで情報共有し、よりよいケアの実践に心がけている）</p>			
<p>■複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略（COPDが背景にある虚血性心不全患者の心原性脳塞栓といった症例が豊富であり、PT、ST、OTとMSWそして主治医が常に病棟で顔を合わせる環境を構築している）</p>			

<p>■必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略（内科は専門診療科を包括し一体運営している。循環器、消化器、呼吸器、血液、脳血管治療などの専門医と合同でカンファレンスを毎日開催している。精神科は徒歩圏内に専門病院があり連携している。NST、WOC チーム、感染対策チーム、緩和ケアチーム、MACT (monitor alarm control team) への相談も可能である。院内の各専門医・専門科に随時相談をして、より良い医療を提供している。）</p>
<p>■心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略（臨床倫理の4分割表を用いて多職種カンファレンスを開催している。）</p>
<p>■癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略（緩和ケアチームによるラウンドを週1回施行している。必要に応じて緩和ケアチームや非常勤の心療内科医に相談しながら、疼痛緩和やQOL向上を目指して取り組んでいる。慢性心不全や慢性呼吸不全などの良性疾患のターミナルケアにも力を入れている。）</p>
<p>■退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略（ご本人・ご家族、ケア・マネージャーや在宅医との退院支援カンファレンスを随時行っている。退院支援専従の看護師も配置している。）</p>
<p>■在宅患者の入院時対応 具体的な体制（医師会と連携し、在宅療養者のバックベッド機能を有している。24時間入院を受け入れている。）</p>
<p>外来診療：以下の診療全てを行っていること</p>
<p>■救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略（ERを当番制でおこなっている。紹介状を持たない患者は全て総合内科初診外来で担当している。担当した患者の振り返りを指導医と共に夕方に実施。救急搬送件数は約5000件/年であり、総合内科と救急科は一体的に運営されている。）</p>
<p>■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略（総合内科外来では臓器を特定できない症候や複合的な疾患のある患者を随時診療している。複数の健康問題を抱える患者、不明熱、他の医療機関で診断がつかない患者、原発不明癌を得意にしている。）</p>
<p>■よくある症候と疾患 具体的な体制と方略（発熱、疼痛、めまい、呼吸困難、胸痛、動悸、食欲不振、体重減少、浮腫、リンパ節腫脹、倦怠感などが多い。ほとんどの症例で最終診断（感染症、膠原病、がん、狭心症、肺気腫、リンパ腫等）がついている。また、いわゆる老年症候群も多い。）</p>
<p>■臨床推論・EBM 具体的な体制と方略（毎週ACP journal clubを開催している。年1回EBMの講義を実施している。また地域の医師にも開放した臨床推論カンファレンスを毎月実施している。UpToDateをいつでもどこからでも使用できる環境も構築。）</p>
<p>■複数の健康問題への包括的なケア 具体的な体制と方略（院内外の専門医とディスカッションしながら主治医機能をはたし、全人的医療を実践している。）</p>
<p>■診断困難患者への対応 具体的な体制と方略（要に応じて入院精査を行う。全科出席の総合カンファレンスで議論しても診断不明な患者に対しては連携医療機関である自治医科大学附属さいたま医療センターに紹介している。）</p>
<p>診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））</p>
<p>■当該診療科におけるのべ外来患者数 200名以上/月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）</p>
<p>■当該診療科における入院患者総数 20件以上/月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）</p>
<p>研修中に定期的に行う教育</p>
<p>当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （朝カンファレンス、GPC、journal club、総合内科カンファレンスを開催している。カルテチェックは随時施行。） 他の施設で行う教育・研修機会 （埼玉プライマリ・ケア連合研究会主催のIPW研究会やポートフォリオ発表会を利用）</p>
<p>他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること</p>
<p>本プログラム以外の参加プログラム数 (0) プログラム名 () プログラム名 () プログラム名 ()</p>

研修施設名	秩父市立病院
診療科名	(総合診療科)

	※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	病院病床数 (165) 床 診療科病床数 (36) 床		
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間	(6—12) カ月		
常勤指導医の有無	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり 常勤指導医なしの場合 <input type="checkbox"/> へき地・離島であると都道府県により法的に指定されている地区の施設である その場合のサポート体制 ()		
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい ()		
常勤指導医氏名 1	瀬戸山敏幸	指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 2	神山英範	指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 3	勅使河原正敏	指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 4	中原守康	指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 5		指導医登録番号	()
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (<input checked="" type="checkbox"/> のように))			
研修の内容			
<p>■病棟診療：病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題(心理・社会・倫理的問題を含む)を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。</p> <p>■外来診療：臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する</p>			
施設要件			
<p>■一般病床ないしは地域包括ケア病床を有する</p> <p>■救急医療を提供している</p>			
病棟診療 ：以下の全てを行っていること			
<p>■高齢者（特に虚弱）ケア 具体的な体制と方略（入院患者の70%・外来患者の55%以上が65歳以上の高齢者である。なかでも高齢夫婦世帯や高齢者独居世帯の入院が多い。入院後は退院後の生活を見据えて、多職種カンファレンスを行い情報を共有し協働し安心して暮らせるための支援をしている。）</p>			
<p>■複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略（複数の問題を抱える患者に対しては、担当科が主治医機能を発揮しながら他科や他院と連携し症状の軽減に努めている。また退院後を見据えて地域医療連携室を通して、地域の担当者へ情報提供を行い、患者に適した療養環境になるようにマネジメントを行っている。健康問題によっては、保健師に訪問を依頼することもある。）</p>			
<p>■必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略（救急・急患を年間4500件以上受入れている。標榜科においては随時他科受診を行い、専門医の診断を仰いでいる。高度医療や専門治療が必要な時は、連携施設に連絡し転院や診療科受診を行っている。（また当院の褥瘡・緩和・NST・DMチームなどにコンサルテーションし、チームとして関わりを行っている。）</p>			
<p>■心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略（医師・看護師はじめ医療スタッフは、患者・家族からの意見・要望などを患者カンファレンスで提議し協議している。（必要によっては、家族にも参加してもらい検討している。）部署のカンファレンスで解決し難い事例は、倫理委員会に提言している。倫理（倫理審査）委員会は、随時開催している。またインフォームド・コンセントに、看護師が同席し患者・家族に助言できるようにしている。同席できない時は、後でインフォームド・コンセントの内容を確認している。）</p>			
<p>■癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略（大学病院での治療後、住み慣れた環境で療養を望む患者の受け入れをしている。必要に応じて多職種によるカンファレンスを開き情報共有し、疼痛緩和やご本人のQOLの向上に取り組んでいる。住み慣れた家での療養を希望する時は、自宅近くの医療機関に紹介し在宅療養ができるよう連携を取っている。また病状が安定している時期は、在宅療養を勧めることもある。入院希望のあるときや状態悪化の時には、24時間いつでも入院受け入れができる体制を取っている。）</p>			
<p>■退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略（入院時より「社会的支援の要否スクリーニング票」を用いて、在宅療養に向けた支援が必要な患者を把握している。地域医療連携室MSW・看護師が、医師からのインフォームド・コンセントに同席するなどの方法で、患者の治療方針を把握し、病棟看護師長などと退院に向けて協議している。地域医療連携室MSW・</p>			

<p>看護師が、患者・家族と面談し「退院計画書」を作成している。「退院計画書」を基に退院前に地域医療連携室MSW・看護師と担当ケア・マネージャーが、患者の情報を共有し、患者に合ったケア計画を検討している。退院前に、サービス内容の検討をするために、ケア会議を開いている。会議参加者：サービス事業所・地域医療連携室・医師・看護師・リハビリスタッフなど</p>
<p>■在宅患者の入院時対応 具体的な体制（状態が変化した在宅患者がいる時は、かかりつけ医からの連絡や訪問看護師・ケア・マネージャーからの情報を医師または地域医療連携室が受け、外来受診・入院の体制を整え受け入れている。また介護者が体調を崩した時などは地域医療連携室が相談を受け、レスパイト入院を受けている。</p>
<p>外来診療：以下の診療全てを行っていること ■救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略（救急告示病院であり随時救急は受け入れている。また、秩父地域輪番制で夜間・休日の救急を担当している。救急・急患者は年間4500件以上である。内科は初診外来を行っている。他診療科は特に設けていないが、外来受付時に問診を行いトリアージを行っている。）</p>
<p>■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略（当外来では、臓器を特定できない症状や複合的な疾患のある患者に対しては、看護師がトリアージし診療科を選定している。特に複数の健康問題を抱える患者や他の医療機関で診断のつかない患者等は、複数の診療科を選定している）</p>
<p>■よくある症候と疾患 具体的な体制と方略（発熱、疼痛、めまい、食欲不振、浮腫、動悸、倦怠感、発疹など頻度の高い症状を訴え来院し、その診察・検査をしている。ほとんどの症例で診断をつけ、専門治療が必要な時は、搬送や翌日専門外来への受診を説明している。また高齢者の中には老化に伴う複数の健康問題を抱える患者もいるため、当院で治療が十分できない時は、専門医療機関を紹介している。</p>
<p>■臨床推論・EBM 具体的な体制と方略（外来患者では、上席の医師や専門医に相談している。入院患者は、最低1回/週カンファレンスを行う他、朝や夕方にラウンドした後、意見交換をしている。）またUP TO Dateなどの教育ツールをオンラインで使用できる環境を整えている。</p>
<p>■複数の健康問題への包括的なケア 具体的な体制と方略（複数の健康問題のある患者に対して、院内でのコンサルテーションだけではなく、地域医療連携室を介して近隣の医療機関、福祉・介護施設と連携して包括的なケアを提供している）</p>
<p>■診断困難患者への対応 具体的な体制と方略（外来での診断が困難な症例については必要に応じて入院での精査を行うか、高度医療機関へ紹介している。基本的には外来で担当した医師が入院の担当となる。科内でのカンファレンス、他科へのコンサルテーション等でほぼ診断が可能ではあるが、そうでない場合は高度医療機関を紹介している。）</p>
<p>診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））</p>
<p>■当該診療科におけるのべ外来患者数 200名以上/月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）</p>
<p>■当該診療科における入院患者総数 20件以上/月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）</p>
<p>研修中に定期的に行う教育</p>
<p>当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （病棟回診、外来振り返りカンファレンス、院長作成DVD（症例集）によるミニクルズス、救急シミュレーションカンファレンス、救急ケースカンファレンス） 他の施設で行う教育・研修機会 （秩父郡市医師会主催秩医カンファレンス、学術講演会）</p>
<p>他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること</p>
<p>本プログラム以外の参加プログラム数 （2） プログラム名（総合診療専門医養成プログラム「ちちぶ」） プログラム名（埼玉医科大学病院総合診療研修プログラム） プログラム名（ ）</p>

研修施設名	国民健康保険町立小鹿野中央病院
診療科名	（ 総合診療科 ） ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。
施設情報	病院病床数（ 95 ）床 診療科病床数（ ）床
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間	（ 6—12 ）カ月

常勤指導医の有無	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり 常勤指導医なしの場合 <input type="checkbox"/> へき地・離島であると都道府県により法的に指定されている地区の施設である その場合のサポート体制 ()		
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい ()		
常勤指導医氏名 1	関口 哲夫	指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 2	内田 望	指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 3	黒沢 正喜	指導医登録番号	()
要件（各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす（ <input checked="" type="checkbox"/> のように））			
研修の内容			
<input checked="" type="checkbox"/> 病棟診療：病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題（心理・社会・倫理的問題を含む）を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。 <input checked="" type="checkbox"/> 外来診療：臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する			
施設要件			
<input checked="" type="checkbox"/> 一般病床ないしは地域包括ケア病床を有する <input checked="" type="checkbox"/> 救急医療を提供している			
病棟診療 ：以下の全てを行っていること			
<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者（特に虚弱）ケア 具体的な体制と方略（一般病床、包括ケア病床、療養病床があり、治療からリハビリ在宅への移行まで一連の対応が行える。）			
<input checked="" type="checkbox"/> 複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略（眼科、耳鼻咽喉科、心療内科、婦人科、整形外科があり、コンサルトできる。）			
<input checked="" type="checkbox"/> 必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略（埼玉県立循環器・呼吸器病センター、埼玉県立がんセンター、大学病院との連携が日常行われている。）			
<input checked="" type="checkbox"/> 心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略（多職種カンファランス、ケアカンファランスなどによる情報把握が可能で多面的な対応ができる。）			
<input checked="" type="checkbox"/> 癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略（緩和ケアチームがあり、カンファランスで情報を交換している。在宅支援も行っている。）			
<input checked="" type="checkbox"/> 退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略（連携室をもち、MSWも常勤している。退院支援会議も開催している。）			
<input checked="" type="checkbox"/> 在宅患者の入院時対応 具体的な体制（在宅支援病院としての対応、特別入院体制をとっている。）			
外来診療 ：以下の診療全てを行っていること			
<input checked="" type="checkbox"/> 救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略総合診療外来を常態としている。救急告示病院として対応している。ファーストコールで対応）			
<input checked="" type="checkbox"/> 臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略（総合診療外来で幅広い患者を受け入れている。カンファランスを行い、一般病棟入院患者すべてカバーしている。）			
<input checked="" type="checkbox"/> よくある症候と疾患 具体的な体制と方略（地域の小病院であるため、コモンディーズに多く出会える）			
<input checked="" type="checkbox"/> 臨床推論・EBM 具体的な体制と方略（病棟カンファランスを毎週行い、掘り下げている。）			
<input checked="" type="checkbox"/> 複数の健康問題への包括的なケア 具体的な体制と方略（在宅診療を行い、包括的なケアと関わっている。）			
<input checked="" type="checkbox"/> 診断困難患者への対応 具体的な体制と方略（大学の総合診療科や専門病院へ依頼している。）			
診療実績（各項目を満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす（ <input checked="" type="checkbox"/> のように））			
<input checked="" type="checkbox"/> 当該診療科におけるのべ外来患者数 200名以上／月 <input type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略 ()			

■当該診療科における入院患者総数 20件以上/月
上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している
 具体的な体制と方略（ ）

研修中に定期的に行う教育

当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会
 (週2回ブリーフィング、週1回カンファレンス、月1回の緩和振り返りカンファレンス、月2回の多職種連携のケア会議・包括ケア会議、院外医師との月2回の症例検討会)
 他の施設で行う教育・研修機会
 ()

他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること

本プログラム以外の参加プログラム数 (1)
 プログラム名 (埼玉医科大学病院総合診療専門医研修プログラム)
 プログラム名 ()
 プログラム名 ()

研修施設名	南魚沼市民病院		
診療科名	(内科) ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	病院病床数 (140) 床 診療科病床数 (46) 床		
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間	(6 - 12) カ月		
常勤指導医の有無	<input type="checkbox"/> なし ■あり 常勤指導医なしの場合 <input type="checkbox"/> へき地・離島であると都道府県により法的に指定されている地区の施設である その場合のサポート体制 ()		
研修期間の分割	■なし <input type="checkbox"/> あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい ()		
常勤指導医氏名1	大西 康史	指導医登録番号	()
常勤指導医氏名2		指導医登録番号	()
常勤指導医氏名3		指導医登録番号	()
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (■のように))			
研修の内容			
■病棟診療：病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題(心理・社会・倫理的問題を含む)を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。 ■外来診療：臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する			
施設要件			
■一般病床ないしは地域包括ケア病床を有する ■救急医療を提供している			
病棟診療 ：以下の全てを行っていること			
■高齢者(特に虚弱)ケア 具体的な体制と方略(当院の内科は幅広い疾患、様々な社会的背景を持った高齢者が多く入院しており、退院先の支援まで病棟看護師、地域医療連携室と協力して行うことが主治医には求められる。当院の特徴としては何らかの疾患を原因としてADL低下を来した患者には早期のリハビリテーションの介入が可能である。)			
■複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略(当院の内科は高血圧や糖尿病といった複数の慢性疾患を有している高齢者が多く、さらに悪性疾患の治療や適切なリハビリテーションの指示も必要となることが多い。複数の健康問題には、それぞれを適切に評価したうえでのマネジメントが必要だが、患者を一人の病める存在という認識のもと、主治医として責任を持って向き合うことを求めている。)			

<p>■必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略（内科では専門科として循環器科、神経内科、呼吸器科、腎臓内科のコンサルテーションが可能であり、また消化器科に関する問題は外科を主に相談が可能である。精神科については常勤医が2人おり、認知症のマネジメントなどコンサルテーション可能である。整形外科、皮膚科、耳鼻科、精神科、泌尿器科、眼科についてもおおよそ週に1回の頻度で診察依頼が院内で可能である。）</p>
<p>■心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略（心理面は主治医と病棟看護師が主体となりサポートするが、精神的な問題は常勤精神科医が2名おり、手厚い診療を受けることができる。社会的な問題が複雑な患者は社会福祉士と在宅支援看護師等で構成される地域医療連携室が介入する。チームで意見交換が必要時にはカンファレンスが開催されている。）</p>
<p>■癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略（癌患者の緩和ケアにおいては、オピオイドの適切な使用などを上級指導医から受けることが可能である。自宅退院の際には、訪問看護ステーション等の連携により、在宅緩和ケアにつなげることが可能である。）</p>
<p>■退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略（地域医療連携室の社会福祉士と在宅支援看護師が主治医と病棟看護師をサポートする形で退院支援を行っている。また自宅退院前には担当ケア・マネージャーや退院後のサービス担当事業者とともに退院前カンファレンスを開催することが多い。）</p>
<p>■在宅患者の入院時対応 具体的な体制（在宅患者の臨時往診は必要時に各科主治医、あるいは在宅医療を担当する地域ケア科医師によって行われ、入院が必要であれば、診療時間内、時間外を問わずにベッドを準備して入院が可能である。）</p>
<p>外来診療：以下の診療全てを行っていること</p>
<p>■救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略（救急外来は診療時間外の全ての時間で対応している。内科初診外来は平日の午前診療を主とし、午後は相談のうえ必要なら内科当番の医師が診療する体制をとっている。）</p>
<p>■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略（内科外来は幅広い疾患、健康問題の初診患者の診療を行っており、時には耳鼻科や皮膚科の問題であっても初期診療を担うことがある。）</p>
<p>■よくある症候と疾患 具体的な体制と方略（軽症から重症まで臓器を問わず、何らかの急性感染症の診療は多くあり、また検診にて指摘された高血圧や糖尿病が疑われる等、慢性疾患の適切な初期マネジメントが求められる。）</p>
<p>■臨床推論・EBM 具体的な体制と方略（当院はUp To Dateのライセンスを取得しており、また院内はWiFiの環境が整備されており、インターネットを介してリアルタイムで根拠の高い診療の検索が可能である。また、指導医によって適切な臨床推論が行われたかスーパーバイズが日々行われている。）</p>
<p>■複数の健康問題への包括的なケア 具体的な体制と方略（院内各科のコンサルテーションや多職種でのチーム医療が体制として確立されており、包括的なケアが可能となっている。）</p>
<p>■診断困難患者への対応 具体的な体制と方略（血液検査など各種生体材料検査、また超音波・CT・MRIなど各種画像診断を含む幅広い検査が院内で可能であり、多くの場合は院内で診断が可能であるが、診断がつかない場合は、後方の三次医療機関への紹介も可能である。）</p>
<p>診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））</p>
<p>■当該診療科におけるのべ外来患者数 200名以上/月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）</p>
<p>■当該診療科における入院患者総数 20件以上/月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）</p>
<p>研修中に定期的に行う教育</p>
<p>当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （週に1回ケースカンファレンス、内科回診（院長）、全入院患者チャートラウンドを行っている。） 他の施設で行う教育・研修機会 （地域で行われる多職種研修会等への参加を予定）</p>
<p>他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること</p>
<p>本プログラム以外の参加プログラム数 （ 4 ） プログラム名（自治医科大学地域医療後期研修プログラム） プログラム名（さいたま市民医療センター総合診療後期研修プログラム） プログラム名（地域医療研究会後期研修プログラム） プログラム名（新潟大学病院総合診療専門研修プログラム）</p>

研修施設名	深谷赤十字病院		
診療科名	(内科) ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	病院病床数 (506) 床 診療科病床数 (39) 床		
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間	(6—12) カ月		
常勤指導医の有無	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり 常勤指導医なしの場合 <input type="checkbox"/> へき地・離島であると都道府県により法的に指定されている地区の施設である その場合のサポート体制 ()		
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい ()		
常勤指導医氏名 1	宮嶋 玲人	指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	()
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (■のように))			
研修の内容			
■病棟診療：病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題(心理・社会・倫理的問題を含む)を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。 ■外来診療：臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する			
施設要件			
<input type="checkbox"/> 一般病床ないしは地域包括ケア病床を有する ■救急医療を提供している			
病棟診療 ：以下の全てを行っていること			
■高齢者(特に虚弱)ケア 具体的な体制と方略 (臓器別な病棟ではないが、多職種と連携して治療計画を行っていく。)			
■複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略 (主治医が直接的に関わり、必要な場合には他科の医師に相談して対応を行っていく。)			
■必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略 (連携については随時該当の医師に相談し、また医師以外のNST・感染・緩和などの専門チームと協議できる環境を整えている。)			
■心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略 (医療相談課や社会福祉課などのソーシャルワーカーが患者の抱えている複雑な事例への対応を行っていく。)			
■癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略 (緩和ケアチームに相談して、患者や家族の意見を聞きながら、対応を協議している。)			
■退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略 (院内の退院支援部門において患者の状態や家庭環境などを加味して近隣の連携施設と協議する。)			
■在宅患者の入院時対応 具体的な体制 (状況によりケア・マネージャーと連携して対応を行っていく。)			
外来診療 ：以下の診療全てを行っていること			
■救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略 (救急外来は救急部において対応を行い、必要時には内科において対応している。初診は内科外来にて診療を行っている。)			
■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略 (当院の内科は、元来臓器別での科でなく、幅広く一般内科として臓器別でない患者の診療を行っている。)			
■よくある症候と疾患 具体的な体制と方略 (一般内科として頻度の高い症状を診療している。また、診療においても必要時には他科診療科医師に相談できる体制を整えている。)			
■臨床推論・EBM 具体的な体制と方略 (内科において週1回のカンファレンスを行い、症例検討を行っている。また、システムとしてUP TO DATE等のソフト環境も整えている。)			

<p>■複数の健康問題への包括的なケア 具体的な体制と方略（ 医療相談課・社会福祉課の多職種により包括的ケアを行っている。 ）</p>
<p>■診断困難患者への対応 具体的な体制と方略（外来においては、入院して検査を行い診断困難をなくすように努めている。必要時には剖検を行うこともある。 ）</p>
<p>診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））</p>
<p>■当該診療科におけるのべ外来患者数 200名以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）</p>
<p>■当該診療科における入院患者総数 20件以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）</p>
<p>研修中に定期的に行う教育</p>
<p>当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （ 週1回の内科カンファレンス ） 他の施設で行う教育・研修機会 （ ）</p>
<p>他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること</p>
<p>本プログラム以外の参加プログラム数 （ 0 ） プログラム名（ ） プログラム名（ ） プログラム名（ ）</p>

研修施設名	社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部 埼玉県済生会川口総合病院		
診療科名	（ 救急・総合内科 ） ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	病院病床数（ 424 ）床 診療科病床数（ 3 ）床		
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間	（ 3～12 ）カ月		
常勤指導医の有無	<input type="checkbox"/> なし ■あり 常勤指導医なしの場合 <input type="checkbox"/> へき地・離島であると都道府県により法的に指定されている地区の施設である その場合のサポート体制 （ ）		
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい （ ）		
常勤指導医氏名1	笠井 英裕	指導医登録番号	（ ）
常勤指導医氏名2		指導医登録番号	（ ）
常勤指導医氏名3		指導医登録番号	（ ）
要件（各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
<p>研修の内容</p> <p>■病棟診療：病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題（心理・社会・倫理的問題を含む）を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。</p> <p>■外来診療：臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する</p>			
<p>施設要件</p> <p>■一般病床ないしは地域包括ケア病床を有する</p> <p>■救急医療を提供している</p>			

<p>病棟診療：以下の全てを行っていること</p> <p>■高齢者（特に虚弱）ケア 具体的な体制と方略（ リハビリテーション科との連携 ）</p>
<p>■複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略（ 各診療科との連携。栄養相談等の受診 ）</p>
<p>■必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略（ 院内における専門科との連携 ）</p>
<p>■心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略（ 横断的立場からの臨床心理士など関連部署との連携や倫理委員会への相談 ）</p>
<p>■癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略（ PCT・緩和ケアチーム活動、緩和ケア講習会の開催 ）</p>
<p>■退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略（ 地域医療支援病院として看護師・MSWなどの退院支援チームを中心とした連携体制 ）</p>
<p>■在宅患者の入院時対応 具体的な体制（ 院内の訪問看護ステーションとの連携 ）</p>
<p>外来診療：以下の診療全てを行っていること</p> <p>■救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略（ 救急センター勤務におけるオンザジョブトレーニング ）</p>
<p>■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略（ ウォークイン、初療、一般内科外来でのトレーニング ）</p>
<p>■よくある症候と疾患 具体的な体制と方略（ 一般外来診療全般 ）</p>
<p>■臨床推論・EBM 具体的な体制と方略（ 現場でのフィードバック、症例検討会など ）</p>
<p>■複数の健康問題への包括的なケア 具体的な体制と方略（ 禁煙外来・栄養相談・糖尿病教室への参加など ）</p>
<p>■診断困難患者への対応 具体的な体制と方略（ 精神領域を含めた、他院への紹介など ）</p>
<p>診療実績（各項目を満たすとき、<input type="checkbox"/>を塗りつぶす（■のように））</p>
<p>■当該診療科におけるのべ外来患者数 200名以上／月 <input type="checkbox"/>上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ 救急搬送患者を含む救急センターの患者も含んでいる ）</p>
<p>■当該診療科における入院患者総数 20件以上／月 <input type="checkbox"/>上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ 救急搬送患者を含む救急センターの患者も含んでいる ）</p>
<p>研修中に定期的に行う教育</p>
<p>当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （ 症例検討会・CPC・モーニングレクチャーなど ）</p> <p>他の施設で行う教育・研修機会 （ ）</p>
<p>他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること</p>
<p>本プログラム以外の参加プログラム数 （ 2 ）</p> <p>プログラム名（ 独立行政法人 国立病院機構 東埼玉病院 総合診療研修プログラム ）</p> <p>プログラム名（ 東京女子医科大学病院 総合診療専門医研修プログラム ）</p> <p>プログラム名（ ）</p>

研修施設名	彩の国東大宮メディカルセンター		
診療科名	(内科) ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	病院病床数 (335) 床 診療科病床数 (70) 床		
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間	(1-6) カ月		
常勤指導医の有無	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり 常勤指導医なしの場合 <input type="checkbox"/> へき地・離島であると都道府県により法的に指定されている地区の施設である その場合のサポート体制 ()		
研修期間の分割	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい (3か月もしくは6か月単位とし、他科研修の間に再度総合診療研修Ⅱがあるように工夫している)		
常勤指導医氏名 1	神田 大輔	指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 2	市原 広太郎	指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 3	市原 めぐみ	指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 4	酒井 直	指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 5	山下 博史	指導医登録番号	()
要件 (各項目の全てを満たすとき、口を塗りつぶす (■のように))			
研修の内容			
■病棟診療：病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題(心理・社会・倫理的問題を含む)を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。 ■外来診療：臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する			
施設要件			
■一般病床ないしは地域包括ケア病床を有する ■救急医療を提供している			
病棟診療 ：以下の全てを行っていること			
■高齢者(特に虚弱)ケア 具体的な体制と方略(当院では、内科系診療科を統合して臓器別ではない幅広い包括的な診療を行う体制としている。入院患者は高齢者が多く、フレイルやサルコペニア、認知症などに対して毎週多職種カンファレンスを行いながら積極的なりハビリテーションやNSTによる栄養介入などを実践している。)			
■複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略(患者や家族が抱える様々な健康問題について意識して問診するように指導しており、毎週行われる医師・看護師・薬剤師・リハビリスタッフ・MSW・在宅支援室看護師などによる多職種カンファレンスでも取り上げて積極的に介入している。)			
■必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略(内科には様々な専門性を持つ医師がおり、カンファレンスや日常診療でもすぐに相談ができる。また、中規模病院のため他科とのコミュニケーションが取りやすい環境にあり、常に他科との連携ができる体制にもなっている。)			
■心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略(毎週行われている多職種カンファレンスで検討したり、必要に応じて家族も交えて相談する場を設けたりしている。さらに、倫理的な複雑事例については倫理委員会に問題を提起した上で検討している。)			
■癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略(当院にはさいたま市唯一の緩和ケア病棟があり、緩和ケア医2名が診療にあたっている。主治医となった患者の緩和ケアについては常時相談が可能な体制となっている。また、緩和ケア医とがん相談支援室の認定看護師やMSWが毎週行っている一般病棟患者の緩和ケア回診に参加したり、さいたま赤十字病院緩和ケア科との定期的な緩和ケアカンファレンスに参加したりすることができる。)			
■退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略(地域連携室、MSWや在宅支援室看護師とともに毎週行われるカンファレンスにて患者や家族のニーズに合わせて可能な限り対応している。退院前カンファレンスも積極的に実施している。)			
■在宅患者の入院時対応 具体的な体制(さいたま北部在宅ネットワークを2012年より開催しており、訪問診療医との連携を深めている。急			

<p>性期病院にとって在宅患者の入院対応は最も重要な地域への貢献と考え、救急部とも連携して積極的に受け入れている。)</p>
<p>外来診療：以下の診療全てを行っていること</p> <p>■救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略（救急外来は救急部医師とともに対応を行っており、救急搬送も 6,121 件（H27 年度）を受け入れている。初診患者においては、臓器によらず様々な愁訴の患者に対応している。）</p> <p>■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略（幅広く包括的な診療ができるようになるため、初診患者は臓器を特定できない場合でも初診担当医が対応し、いつでも指導医のコンサルトが受けられる体制をとっている。）</p> <p>■よくある症候と疾患 具体的な体制と方略（発熱、頭痛、めまい、胸痛、呼吸困難、動悸、腹痛、失神、意識障害、倦怠感、浮腫、しびれなど様々な症候に対応している。肺炎、COPD、機能的頭痛、BPPV、CKD、脳梗塞などの脳血管障害、糖尿病、脂質異常症、高血圧などの生活習慣病、認知症などの Common disease の診療を行っている。）</p> <p>■臨床推論・EBM 具体的な体制と方略（初診外来の患者はその都度指導医と相談しながら対応し、毎週行われる外来カンファレンスで振り返りを行って臨床推論の技術を磨いている。Off the job training として EBM セミナーを開催して EBM を学び、日常診療にて、個々の患者に対して最新かつ最良のエビデンスを思慮深く用いることができるよう指導している。）</p> <p>■複数の健康問題への包括的なケア 具体的な体制と方略（高齢者が多く、複数の健康問題を抱えている患者が多い。専門医や他職種との連携を密にして、包括的なケアが実践できるよう指導している。）</p> <p>■診断困難患者への対応 具体的な体制と方略（診断困難な患者は、毎週のカンファレンス以外であっても、いつでも相談し合える環境を作っている。指導医と一緒に診察したり、他科への診察依頼や文献検索をしたりすることで多くは確定診断に至るが、それでも困難な場合には、近隣病院に依頼することもある。）</p>
<p>診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））</p>
<p>■当該診療科におけるのべ外来患者数 200 名以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）</p>
<p>■当該診療科における入院患者総数 20 件以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）</p>
<p>研修中に定期的に行う教育</p> <p>当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 週 1 回（毎週火曜日午後）の多職種合同の総回診、入院患者カンファレンス、外来カンファレンス（外来患者のチャートレビュー）、内科系診療科合同カンファレンス、救急部合同カンファレンス、消化器内科・外科カンファレンス、輪読会（症候診断学など）、CPC、M&M カンファレンス、医療安全・感染対策・医療倫理・プライバシー保護等に関する定期的な院内勉強会、EBM セミナー、学会発表や論文作成のための勉強会、ポートフォリオ勉強会や作成指導、BLS・ICLS、ICU 勉強会、緩和ケア研修会、さいたま赤十字病院緩和ケア科とのカンファレンス、中心静脈カテーテル挿入手技講習会、臨床栄養の研究会（AMG NST フォーラム）や訪問診療医とのカンファレンス（さいたま北部在宅ネットワーク）への参加など 他の施設で行う教育・研修機会 PALS、PTLS、JPTEC、JATEC など</p>
<p>他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること</p>
<p>本プログラム以外の参加プログラム数 （ 2 ） プログラム名（自治医科大学附属さいたま医療センター総合診療専門研修プログラム） プログラム名（国立病院機構東埼玉病院総合診療専門研修プログラム）</p>

<p>領域別研修：内科</p>			
<p>研修施設名</p>	<p>自治医科大学附属さいたま医療センター</p>	<p>都道府県コード 11</p>	<p>医療機関コード 0304048</p>
<p>領域別研修（内科）における研修期間</p>		<p>（ 3 - 6 ）カ月</p>	
<p>指導医氏名</p>	<p>小山信一郎</p>		
<p>有する認定医・専門医資格 ※内科に関するもの</p>	<p>呼吸器専門医・指導医、日本呼吸器内視鏡学会専門医・指導医、日本アレルギー学会専門医</p>		
<p>要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））</p>			

研修の内容	
■病棟診療：病棟での主治医として主に内科疾患の急性期患者の診療を幅広く経験する	
施設要件	
■内科専門研修プログラムに参加している	
■基幹施設 □連携施設 □特別連携施設	
■内科学会の認定する指導医が常勤で在籍しており、J-OSLER（専攻医登録評価システム）を使用できる	
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））	
■当該診療科における入院患者総数 40 件以上／月	
□上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）	
他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること	
本プログラム以外の参加プログラム数（ 3 ）	
プログラム名（さいたま市民医療センター総合診療研修プログラム）	
プログラム名（JCHOさいたま北部総合診療専門研修プログラム）	
プログラム名（東北大学病院 総合診療専門研修プログラム）	
プログラム名（彩の国東埼玉メディカルセンター総合診療専門研修プログラム）	

領域別研修：内科			
研修施設名	さいたま市民医療センター	都道府県コード 11	医療機関コード 6504344
領域別研修（内科）における研修期間	（ 3 - 6 ）カ月		
指導医氏名	松本建志		
有する認定医・専門医資格 ※内科に関するもの	日本内科学会総合内科専門医・指導医 日本呼吸器学会専門医 日本呼吸器内視鏡学会専門医・指導医 日本アレルギー学会専門医		
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
■病棟診療：病棟での主治医として主に内科疾患の急性期患者の診療を幅広く経験する			
施設要件			
■内科専門研修プログラムに参加している			
■基幹施設 □連携施設 □特別連携施設			
□内科学会の認定する指導医が常勤で在籍しており、J-OSLER（専攻医登録評価システム）を使用できる			
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
■当該診療科における入院患者総数 40 件以上／月			
□上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数（ 1 ）			
プログラム名（さいたま市民医療センター総合診療専門医研修プログラム）			
プログラム名（ ）			
プログラム名（ ）			

領域別研修：内科			
研修施設名	深谷赤十字病院	都道府県コード 11	医療機関コード 4600656
領域別研修（内科）における研修期間	（ 3 - 6 ）カ月		
指導医氏名	宮嶋 玲人		
有する認定医・専門医資格 ※内科に関するもの	プライマリ・ケア指導医・循環器専門医・内科認定医		
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
■病棟診療：病棟での主治医として主に内科疾患の急性期患者の診療を幅広く経験する			

施設要件	
<input checked="" type="checkbox"/> 内科専門研修プログラムに参加している <input type="checkbox"/> 基幹施設 <input checked="" type="checkbox"/> 連携施設 <input type="checkbox"/> 特別連携施設 <input checked="" type="checkbox"/> 内科学会の認定する指導医が常勤で在籍しており、J-OSLER（専攻医登録評価システム）を使用できる	
診療実績（各項目を満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす（ <input checked="" type="checkbox"/> のように））	
<input checked="" type="checkbox"/> 当該診療科における入院患者総数 40 件以上／月 <input type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）	
他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること	
本プログラム以外の参加プログラム数（ 0 ） プログラム名（ ） プログラム名（ ） プログラム名（ ）	

領域別研修：内科			
研修施設名	社会福祉法人恩賜財団済生会支部 埼玉県済生会川口総合病院	都道府県コード 11	医療機関コード 0201350
領域別研修（内科）における研修期間		（ 3～12 ）カ月	
指導医氏名	窪田 研二		
有する認定医・専門医資格 ※内科に関するもの	日本内科学会認定医・総合内科専門医・日本腎臓学会専門医		
要件（各項目を満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす（ <input checked="" type="checkbox"/> のように））			
研修の内容			
<input checked="" type="checkbox"/> 病棟診療：病棟での主治医として主に内科疾患の急性期患者の診療を幅広く経験する			
施設要件			
<input checked="" type="checkbox"/> 内科専門研修プログラムに参加している <input checked="" type="checkbox"/> 基幹施設 <input type="checkbox"/> 連携施設 <input type="checkbox"/> 特別連携施設 <input checked="" type="checkbox"/> 内科学会の認定する指導医が常勤で在籍しており、J-OSLER（専攻医登録評価システム）を使用できる			
診療実績（各項目を満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす（ <input checked="" type="checkbox"/> のように））			
<input checked="" type="checkbox"/> 当該診療科における入院患者総数 40 件以上／月 <input type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数（ 1 ） プログラム名（ 独立行政法人 国立病院機構 東埼玉病院 ） プログラム名（ ） プログラム名（ ）			

領域別研修：内科			
研修施設名	彩の国東大宮メディカルセンター	都道府県コード 11	医療機関コード 6507248
領域別研修（内科）における研修期間		（ 3～6 ）カ月	
指導医氏名	神田大輔		
有する認定医・専門医資格 ※内科に関するもの	日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本消化器病学会専門医・指導医、日本肝臓学会専門医・指導医、日本がん治療認定医機構認定医、米国内科学会フェロー（FACP）		
要件（各項目を満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす（ <input checked="" type="checkbox"/> のように））			
研修の内容			
<input checked="" type="checkbox"/> 病棟診療：病棟での主治医として主に内科疾患の急性期患者の診療を幅広く経験する			

施設要件			
<input checked="" type="checkbox"/> 内科専門研修プログラムに参加している <input type="checkbox"/> 基幹施設 <input checked="" type="checkbox"/> 連携施設 <input type="checkbox"/> 特別連携施設 <input checked="" type="checkbox"/> 内科学会の認定する指導医が常勤で在籍しており、J-OSLER（専攻医登録評価システム）を使用できる			
診療実績（各項目を満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす（ <input checked="" type="checkbox"/> のように））			
<input checked="" type="checkbox"/> 当該診療科における入院患者総数 40 件以上／月 <input type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数（ 1 ） プログラム名（彩の国東大宮メディカルセンター総合診療専門研修プログラム） プログラム名（ ） プログラム名（ ）			

領域別研修：小児科			
研修施設名	自治医科大学附属さいたま医療センター	都道府県コード 11	医療機関コード 0304048
領域別研修（小児科）における研修期間		（ 1－3 ）カ月	
指導医氏名	市橋 光	有する専門医資格（日本小児科学会認定専門医，日本超音波医学会指導医・専門医，日本小児神経学会認定小児神経専門医，日本小児循環器学会専門医） ※小児科に関するもの	
要件（各項目を満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす（ <input checked="" type="checkbox"/> のように））			
研修の内容			
<input checked="" type="checkbox"/> 外来診療：指導医の下で初診を数多く経験し、小児特有の疾患を含む日常的に遭遇する症候や疾患の対応を経験する <input checked="" type="checkbox"/> 救急診療：指導医の監督下で積極的に救急外来を担当し、軽症、1次救急を中心に経験する <input checked="" type="checkbox"/> 病棟診療：日常的に遭遇する疾患の入院診療を担当し、外来・救急から入院に至る流れと基本的な入院ケアを学ぶ			
施設要件			
<input checked="" type="checkbox"/> 小児領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる <input checked="" type="checkbox"/> 小児科常勤医がいる。（ 17 ）名			
診療実績（各項目を満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす（ <input checked="" type="checkbox"/> のように））			
<input checked="" type="checkbox"/> 当該診療科におけるのべ外来患者数 400 名以上／月 <input type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数（ ） プログラム名（ ） プログラム名（ ） プログラム名（ ）			

※研修施設が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること
 ※小児科研修をカリキュラム制での実施を希望する場合は、その条件（2ページ「4 概要 D. ローテーションのスケジュールと期間」参照）を確認したうえで、具体的にどのような研修を行うのか、別途説明した文書を添付してください。
 （A4で1枚程度、書式自由）文書には、プログラム制では実施できない合理的な理由と、プログラム制と同等の研修経験・指導の質を担保するための工夫に関する記載も含めるようにしてください。

領域別研修：小児科			
研修施設名	JCHO さいたま北部医療センター	都道府県コード 11	医療機関コード 03-0100-2
領域別研修（小児科）における研修期間		（ 1－3 ）カ月	
指導医氏名	中村 明夫	有する専門医資格（ 日本小児科学会認定専門医 ） ※小児科に関するもの	

要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
■外来診療：指導医の下で初診を数多く経験し、小児特有の疾患を含む日常的に遭遇する症候や疾患の対応を経験する			
■救急診療：指導医の監督下で積極的に救急外来を担当し、軽症、1次救急を中心に経験する			
■病棟診療：日常的に遭遇する疾患の入院診療を担当し、外来・救急から入院に至る流れと基本的な入院ケアを学ぶ			
施設要件			
■小児領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる			
■小児科常勤医がいる。（ 2 ）名			
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
■当該診療科におけるのべ外来患者数 400名以上／月			
□上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している			
具体的な体制と方略（ ）			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数（ ）			
プログラム名（ ）			
プログラム名（ ）			
プログラム名（ ）			

領域別研修：小児科			
研修施設名	埼玉県済生会川口総合病院	都道府県コード 11	医療機関コード 0201350
領域別研修（小児科）における研修期間	（ 1-3 ）カ月		
指導医氏名	大山 昇一	有する専門医資格（日本小児科学会専門医） ※小児科に関するもの	
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
■外来診療：指導医の下で初診を数多く経験し、小児特有の疾患を含む日常的に遭遇する症候や疾患の対応を経験する			
■救急診療：指導医の監督下で積極的に救急外来を担当し、軽症、1次救急を中心に経験する			
■病棟診療：日常的に遭遇する疾患の入院診療を担当し、外来・救急から入院に至る流れと基本的な入院ケアを学ぶ			
施設要件			
■小児領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる			
■小児科常勤医がいる。（ 11 ）名			
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
■当該診療科におけるのべ外来患者数 400名以上／月			
□上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している			
具体的な体制と方略（ ）			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数（ 2 ）			
プログラム名（ 国立病院機構 東埼玉病院 ）			
プログラム名（ 埼玉石心会病院 ）			
プログラム名（ ）			

領域別研修：救急科			
研修施設名	自治医科大学附属さいたま医療センター	都道府県コード 11	医療機関コード 0304048
指導医氏名	守谷 俊	有する専門医資格（日本救急医学会指導医・専門医、日本脳神経学会専門医、日本集中治療医学会専門医、日本外傷学会専門医、日本脳卒中学会専門医） 専従する部署（救急部）	
■研修期間（ 3-6 ）カ月			

要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
■救急診療：外科系・小児を含む全科の主に軽症から中等症救急疾患の診療を経験する			
施設要件 （下記のいずれかを満たす）			
■救命救急センターもしくは救急科専門医指定施設			
□救急科専門医等が救急担当として専従する一定の規模の医療機関（救急搬送件数が年に1000件以上）			
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
■当該診療科におけるのべ救急搬送件数 1000件以上／年			
□上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数（ なし ）			
プログラム名（ ）			
プログラム名（ ）			
プログラム名（ ）			

※研修施設が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること

※救急科研修をカリキュラム制での実施を希望する場合は、その条件（2ページ「4概要 D. ローテーションのスケジュールと期間」参照）を確認したうえで、具体的にどのような研修を行うのか、別途説明した文書を添付してください。

（A4で1枚程度、書式自由）文書には、プログラム制では実施できない合理的な理由と、プログラム制と同等の研修経験・指導の質を担保するための工夫に関する記載も含めるようにしてください。

領域別研修：救急科			
研修施設名	さいたま市民医療センター	都道府県コード 11	医療機関コード 6504344
指導医氏名	坪井 謙	有する専門医資格 (救急科専門医) (脳神経血管内治療学会専門医) (脳卒中専門医) (総合内科専門医)	専従する部署 (救急総合診療科)
■研修期間（3~6）カ月			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
■救急診療：外科系・小児を含む全科の主に軽症から中等症救急疾患の診療を経験する			
施設要件 （下記のいずれかを満たす）			
□救命救急センターもしくは救急科専門医指定施設			
■救急科専門医等が救急担当として専従する一定の規模の医療機関（救急搬送件数が年に1000件以上）			
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
■当該診療科におけるのべ救急搬送件数 1000件以上／年			
□上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数（ 1 ）			
プログラム名（さいたま市民医療センター総合診療専門医研修プログラム）			
プログラム名（ ）			
プログラム名（ ）			

その他の領域別診療科

領域別研修：一般・消化器外科			
研修施設名	自治医科大学附属さいたま医療センター	都道府県コード 11	医療機関コード 0304048

指導医氏名	カ山 敏樹	有する専門医資格 (日本外科学会・指導医, 専門医)	専従する部署 (一般・消化器外科)
■研修期間 (選択 1-6) カ月以内			
要件 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
研修の内容			
■総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
施設要件 (下記のいずれかを満たす)			
■ (一般・消化器外科) 領域における基本能力 (診断学、治療学、手技等) が修得できる			
■ (一般・消化器外) 科常勤医がいる。 (19) 名			

領域別研修：呼吸器外科			
研修施設名	自治医科大学附属さいたま医療センター	都道府県コード 11	医療機関コード 0304048
指導医氏名	坪地 宏嘉	有する専門医資格 (呼吸器外科専門医)	専従する部署 (呼吸器外科)
■研修期間 (選択 1-6) カ月以内			
要件 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
研修の内容			
■総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
施設要件 (下記のいずれかを満たす)			
■ (胸部外科) 領域における基本能力 (診断学、治療学、手技等) が修得できる			
■ (呼吸器外) 科常勤医がいる。 (4) 名			

領域別研修：心臓血管外科			
研修施設名	自治医科大学附属さいたま医療センター	都道府県コード 11	医療機関コード 0304048
指導医氏名	山口 敦司	有する専門医資格 (心臓血管外科専門医)	専従する部署 (心臓血管外科)
■研修期間 (選択 1-6) カ月以内			
要件 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
研修の内容			
■総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
施設要件 (下記のいずれかを満たす)			
■ (心臓血管外科) 領域における基本能力 (診断学、治療学、手技等) が修得できる			
■ (心臓血管外) 科常勤医がいる。 (19) 名			

領域別研修：脳神経外科			
研修施設名	自治医科大学附属さいたま医療センター	都道府県コード 11	医療機関コード 0304048
指導医氏名	田中 裕一	有する専門医資格 (日本脳神経外科学会・指導医、専門医)	専従する部署 (脳神経外科)
■研修期間 (選択 1-6) カ月以内			
要件 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
研修の内容			
■総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
施設要件 (下記のいずれかを満たす)			
■ (脳神経外科) 領域における基本能力 (診断学、治療学、手技等) が修得できる			
■ (脳神経外) 科常勤医がいる。 (7) 名			

領域別研修：整形外科			
-------------------	--	--	--

研修施設名	自治医科大学附属さいたま医療センター	都道府県コード 11	医療機関コード 0304048
指導医氏名	秋山 達	有する専門医資格 (日本整形外科学会専門医)	専従する部署 (整形外科)
■研修期間 (選択 1-6) カ月以内			
要件 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
研修の内容			
■総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
施設要件 (下記のいずれかを満たす)			
■ (整形外科) 領域における基本能力 (診断学、治療学、手技等) が修得できる			
■ (整形外) 科常勤医がいる。 (4) 名			

領域別研修：泌尿器科			
研修施設名	自治医科大学附属さいたま医療センター	都道府県コード 11	医療機関コード 0304048
指導医氏名	宮川 友明	有する専門医資格 (日本泌尿器科学会・指導医、専門医)	専従する部署 (泌尿器科)
■研修期間 (選択 1-6) カ月以内			
要件 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
研修の内容			
■総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
施設要件 (下記のいずれかを満たす)			
■ (泌尿器科) 領域における基本能力 (診断学、治療学、手技等) が修得できる			
■ (泌尿器) 科常勤医がいる。 (5) 名			

領域別研修：耳鼻咽喉科			
研修施設名	自治医科大学附属さいたま医療センター	都道府県コード 11	医療機関コード 0304048
指導医氏名	吉田 尚弘	有する専門医資格 (日本耳鼻咽喉科学会専門医)	専従する部署 (耳鼻咽喉科)
■研修期間 (選択 1-6) カ月以内			
要件 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
研修の内容			
■総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
施設要件 (下記のいずれかを満たす)			
■ (耳鼻咽喉科) 領域における基本能力 (診断学、治療学、手技等) が修得できる			
■ (耳鼻咽喉) 科常勤医がいる。 (8) 名			

領域別研修：眼科			
研修施設名	自治医科大学附属さいたま医療センター	都道府県コード 11	医療機関コード 0304048
指導医氏名	梯 彰弘	有する専門医資格 (日本眼科学会専門医)	専従する部署 (眼科)
■研修期間 (選択 1-6) カ月以内			
要件 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
研修の内容			
■総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
施設要件 (下記のいずれかを満たす)			
■ (眼科) 領域における基本能力 (診断学、治療学、手技等) が修得できる			
■ (眼) 科常勤医がいる。 (8) 名			

領域別研修：産婦人科			
研修施設名	自治医科大学附属さいたま医療センター	都道府県コード 11	医療機関コード 0304048
指導医氏名	桑田 知之	有する専門医資格 (日本産科婦人科学会専門医)	専従する部署 (産婦人科)
■研修期間 (選択 1-6) カ月以内			
要件 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
研修の内容			
■総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
施設要件 (下記のいずれかを満たす)			
■ (産婦人科) 領域における基本能力 (診断学、治療学、手技等) が修得できる			
■ (産婦人) 科常勤医がいる。 (8) 名			

領域別研修：産婦人科			
研修施設名	埼玉県済生会川口総合病院	都道府県コード 11	医療機関コード 0201350
指導医氏名	東野 昌彦	有する専門医資格 (日本産科婦人科学会専門医・臨床遺伝専門医学会専門医)	専従する部署 (産婦人科)
■研修期間 (3) カ月以内			
要件 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
研修の内容			
■総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
施設要件 (下記のいずれかを満たす)			
■ (産婦人科) 領域における基本能力 (診断学、治療学、手技等) が修得できる			
■ (産婦人) 科常勤医がいる。 (8) 名			

領域別研修：皮膚科			
研修施設名	自治医科大学附属さいたま医療センター	都道府県コード 11	医療機関コード 0304048
指導医氏名	出光 俊郎	有する専門医資格 (日本皮膚科学会専門医)	専従する部署 (皮膚科)
■研修期間 (選択 1-6) カ月以内			
要件 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
研修の内容			
■総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
施設要件 (下記のいずれかを満たす)			
■ (皮膚科) 領域における基本能力 (診断学、治療学、手技等) が修得できる			
■ (皮膚) 科常勤医がいる。 (6) 名			

領域別研修：皮膚科			
研修施設名	埼玉県済生会川口総合病院	都道府県コード 11	医療機関コード 0201350
指導医氏名	高山 かおる	有する専門医資格 (日本皮膚科学会専門医)	専従する部署 (皮膚科)
■研修期間 (3) カ月以内			
要件 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
研修の内容			
■総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			

施設要件（下記のいずれかを満たす）

- （皮膚科）領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる
- （皮膚）科常勤医がいる。（2）名

領域別研修：麻酔科

研修施設名	自治医科大学附属さいたま医療センター	都道府県コード 11	医療機関コード 0304048
指導医氏名	石黒 芳紀	有する専門医資格 (日本麻酔科学会指導医・専門医)	専従する部署 (麻酔科)
■研修期間 (選択 1-6) カ月以内			
要件 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
研修の内容			
■総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
施設要件 （下記のいずれかを満たす）			
■（麻酔科）領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる			
■（麻酔）科常勤医がいる。（16）名			

領域別研修：集中治療部

研修施設名	自治医科大学附属さいたま医療センター	都道府県コード 11	医療機関コード 0304048
指導医氏名	讃井 将満	有する専門医資格 (日本集中治療医学会専門医)	専従する部署 (集中治療部)
■研修期間 (選択 1-6) カ月以内			
要件 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
研修の内容			
■総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
施設要件 （下記のいずれかを満たす）			
■（集中治療）領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる			
■（集中治療）科常勤医がいる。（9）名			

領域別研修：周産期科

研修施設名	自治医科大学附属さいたま医療センター	都道府県コード 11	医療機関コード 0304048
指導医氏名	高木 健次郎	有する専門医資格 (日本産科婦人科学会 産婦人科専門医)	専従する部署 (周産期科)
■研修期間 (選択 1-6) カ月以内			
要件 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
研修の内容			
■総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
施設要件 （下記のいずれかを満たす）			
■（周産期）領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる			
■（周産期）科常勤医がいる。（10）名			

領域別研修：メンタルヘルス科

研修施設名	自治医科大学附属さいたま医療センター	都道府県コード 11	医療機関コード 0304048
指導医氏名	岡島 美郎	有する専門医資格 (日本精神神経学会 指導医・専門医)	専従する部署 (心療内科)
■研修期間 (選択 1-6) カ月以内			
要件 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			

研修の内容			
■総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
施設要件 （下記のいずれかを満たす）			
■（精神科）領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる			
■（精神）科常勤医がいる。（2）名			

領域別研修：放射線科			
研修施設名	自治医科大学附属さいたま医療センター	都道府県コード 11	医療機関コード 0304048
指導医氏名	田中 修	有する専門医資格 （日本医学放射線学会 放射線診断専門医）	専従する部署（放射線科）
■研修期間（選択 1-6）カ月以内			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
■総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
施設要件 （下記のいずれかを満たす）			
■（放射線科）領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる			
■（放射線）科常勤医がいる。（10）名			

領域別研修：臨床検査部			
研修施設名	自治医科大学附属さいたま医療センター	都道府県コード 11	医療機関コード 0304048
指導医氏名	尾本 きよか	有する専門医資格（日本臨床検査医学会 臨床検査専門医、日本超音波医学会 超音波専門医・指導医、日本内科学会 総合内科専門医・指導医、プライマリ・ケア連合学会 指導医、日本救急医学会 救急専門医、日本消化器病学会 専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会 専門医・指導医、日本肝臓学会専門医・指導医）	専従する部署 （臨床検査部）
■研修期間（選択 1-6）カ月以内			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
■総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
施設要件 （下記のいずれかを満たす）			
■（臨床検査）領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる			
■（臨床検査）科常勤医がいる。（2）名			

領域別研修：病理診断科			
研修施設名	自治医科大学附属さいたま医療センター	都道府県コード 11	医療機関コード 0304048
指導医氏名	田中 亨	有する専門医資格（日本病理学会 病理専門医・研修指導医）	専従する部署（病理部）
■研修期間（選択 1-6）カ月以内			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
■総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
施設要件 （下記のいずれかを満たす）			
■（病理診断）領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる			
■（病理診断）科常勤医がいる。（3）名			

領域別研修：泌尿器科			
-------------------	--	--	--

研修施設名	JCHO さいたま北部医療センター	都道府県コード 11	医療機関コード 03-0100-2
指導医氏名	中條 洋	有する専門医資格（日本泌尿器科学会 認定専門医）	専従する部署（泌尿器科）
■研修期間 （ 1～3 ）カ月以内			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
■総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
施設要件 （下記のいずれかを満たす）			
■（泌尿器科）領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる			
■（泌尿器）科常勤医がいる。（ 3 ）名			